



発行 福島東高等学校同窓会
 住所 福島市浜田町12-21
 (024) 531-1551
 発行人 金子與志人 人生高等学校事務局長
 編集 三浦賢一 東高同窓会事務局長
 印刷 福同窓会 印刷

福島東高等学校 同窓会

福島東高等学校同窓会会長

金子 與志人



恩師の皆様、現先生方と在校生の皆様、そして同じ学び舎を卒業した同窓生の皆様、初代同窓会会長尾形幸男先輩の後をつとめさせていただく三期生の金子與志人です。

ご挨拶が大変遅くなり、またこの様な形での挨拶に対してお詫び申し上げます。

東高が創立して三十余年が経ち、在校時代や卒業してからもこれと言った同窓会活動をやら

なかつた私がこの様な大役を受けることになり大変恐縮する気持ちと身の引きしまる思いでございます。

この三十余年の歴史を尾形前会長を始めとして多くの卒業生の方々が支えてこられたことは私が想像している以上の御苦労があったと推察します。

そして卒業生だけでなく保護者の皆様にも多大なるご協力と運営をしていただいたことも忘れてならないと心に刻んでいく次第です。

これまでの歴史を作ってきた方々の思いを私なりに理解を深め今後の同窓会活動に微力ながら役立てるつもりです。

がら今まで以上の支援をしたいと思えます。

また人的なお手伝いとしては、職業人に学ぶと言う社会人として職業人としての経験を在校生に話す機会を学校からいただいています。私自身も経験しましたが、在校生の為に話す準備をすることに、自分の仕事を客観的に見直すチャンスになりました。結果的には自分の為に素晴らしい機会にもなりました。

次に、目的や目指す姿です。一昨年になりますが盛大な三十周年の式典は記憶に新しいところでもあります。十周年、二十年、三十年とその時代背景に合わせた中で周年事業が開催されているかと思えます。

そこで、これから目指すのは四十周年の節目となります。まだちょっと先のことで世の中がどの様に变化していくかはわかりませんが、来たるべき四十周年に對し今からコツコツと準備をしなければならぬでしょう。

これまた、金銭的なことで恐縮ですが、現実問題としてすでに積み立てを三十五周年、四十周年に向け開始しております。同窓生の懐かしい思い出を東高と同窓会にご協力いただけます様、改めてよろしくお願い申し上げます。

最後にありますが、同窓生の皆様に二年に一回開催している同窓会総会へのご出席をお願いします。

同窓会活動の中身の活性化はもちろんです。まずは出席人数を増やしたいと思っております。ぜひ地元にいる人はもちろんのこと県外に居る方にも同窓会の案内が届いたらひと声かけていただきます様ご協力下さい。

過去の実績から見ますと、一期生の先輩方から卒業したのの後輩まで幅広く参加いただけてますが総人数としてはまだまだです。

風呂敷を広げた話になります。一学年十名としても約三百名は不可能な話ではありません。二年に一回ですが総会を通じて恩師・同級生・先輩後輩と昔話に盛り上がる時間にしていただければ幸いです。

同窓会事務局として運営いただいている先生方と同窓会活動に深いご理解をいただいている田村校長先生に感謝申し上げます。の締めとさせていただきます。

まだスタートしたばかりの新生同窓会役員です。今後は今まで以上のご指導とご協力をよろしく申し上げます。

文化そして伝統

福島東高等学校長 田村秀夫



東日本大震災から二年になります。震災直後には一六三の国や地域と四三の国際機関から支援の意図が表明されました。これは戦後日本が国際社会に貢献した証でもあると思います。現在日本には国際協力に取り組むNGOが約五〇〇団体あり、その一つであるJPF（ジャパン・プラットフォーム）には一年間で六十七億円もの寄付が届きました。ひとつの団体に寄せられた額の大きさからも、この団体が世界にいかにも多大なる貢献をしてきたかが容易に理解できます。海外での国際協力以外にも、日本の文化は古くから世界中で高い評価を受けてきました。ひまわりで有名なゴッホも日本の浮世絵の影響を大きく受けたと言われています。世界から賞賛をうける日本文化を外交に生かせないかという発想が近年注目を集めています。外交は国と国

との関係ですが、相互理解と信頼関係が不可欠です。その関係の構築には文化は非常に有効でしょうし、立派な外交の武器でもありましょう。世界中から尊敬を集めている日本文化は日本の外交の柱となることでしょう。文化は学校でも引き継がれています。本校では今年度公開文化祭が開催されました。三年に一度の開催で十一回目となりました。「新しい伝統」の高校ですが、すでに三十年以上の歴史を重ねました。今回も生徒一人ひとりが主役となる立派な学校祭でした。正直なところ、昨年度末に年間計画を見たときに不安もありました。一般公開が九月一日であり、夏休み以降の短期間で準備ができるのかと案じながらです。でも三鬼を追っている本校生は短期間で見事完成させました。本校勤務の長い先生方からは、「これが東高生ですよ」と教えられました。

祭の他に校内マラソン大会が一年ぶりに開催されました。体育科教員が走路の放射線量を複数回計測し安全を確認しながらの実施となりました。準備は走路の安全ばかりではありません。体育の授業を利用して、長距離走のための体作りもしました。授業参観をすると、誰一人ふざけて走っている生徒はいません。走るのが得意な生徒も苦手な生徒も自分のペースで黙々と走っていました。そんな中、時折先生の大きな声がグラウンドに響いていました。「大丈夫か?」「自分のペースで無理するなよ!」という励ましの言葉です。ある同窓生にこの話をしましたら、「昔から全員必死で走っていました。男子校時代は厳しさもあり、ふざけて走ることや見学などは考えられなかった。」とおっしゃっていました。時代は変わりましたが、一生懸命走ることは本校の伝統として引き継がれています。大会当日、上位でフィニッシュした生徒達が後から続くクラスの仲間をゴールに迎える姿には感動しました。長距離を走り抜くことは大変辛いことでしょう。辛いからこそ他人の苦しみを理解しての行動だと思います。この感動のシーンを多くの方に見せたいとさえ感じま

した。おそらく保護者の方々は一生懸命に走る我が子の姿に涙したことと思われます。

文化交流は時間が経ってはじめて効果が出てくる投資であると言われています。学校の文化も先輩から引き継がれ、長い時間をかけて作られていくものです。本校の復興を目指し、本年開催された大きな行事からも本校の「文化」そして「伝統」を肌で感じる事ができました。今年度、文化という手段によって本校も「復興」に向けて一生懸命頑張っているというメッセージを発することができました。多くの先輩方が築き上げてくれた本校の文化そして伝統のお陰であると、改めて同窓生の皆様に感謝申し上げます。



福島県立福島東高等学校同窓会規約

[名称および事務局]
第1条 本会は福島県立福島東高等学校同窓会と称し、事務局を福島東高等学校内におく。
[目的および事業]
第2条 本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。
第3条 本会は次の事業を行う。
1. 総会の開催
2. 会員名簿・会報の発行
3. 母校の後援
4. その他本会の目的達成に必要な事項
[会員]
第4条 本会の会員は、本校卒業生並びに本校の退転校者で総会に承認された者とする。
[役員]
第5条 本会に次の役員をおく。
1. 会長 1名
2. 副会長 4名
3. 理事 若干名
4. 監事 3名
5. 幹事 若干名
第6条 役員は次のとおりとする。
1. 会長・副会長および監事は会員中より理事会において推薦し、総会で決定する。
2. 幹事は卒業年次毎に各クラスから2名を互選する。
3. 理事は幹事の中から会長が任命する。
第7条 役員は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は職務を代行する。
3. 理事は会の運営にたずさわり、会務を処理する。
4. 監事は会計を監査する。
5. 監事は他の役員を補佐し、会務運営の推進をはかる。
第8条 役員は任期は2年とし、再任を妨げない。

[顧問]
第9条 本会に顧問をおく。顧問は会長が委嘱し、会長の諮問に応ずる。
[総会]
第10条 総会は会長が召集し原則として年一回開く。ただし、会長が必要と認めた時は臨時総会を開くことができる。
第11条 総会では次の事項を審議し決定する。
1. 事業報告並びに決算の承認
2. 事業計画並びに予算の承認
3. 役員選出
4. 規約の改廃
5. その他重要な事項
第12条 総会の議事は出席者の過半数を持って決定する。
第13条 総会はその権限の一部を理事会または会長・副会長・監事と構成される役員会に委任することができる。
[理事会]
第14条 理事会は会長・副会長・監事・理事をもって構成する。
第15条 理事会は会長が召集し、本会運営上必要な事項を審議・決定するとともに本会の業務の執行にあたる。
[事務局]
第16条 事務局は関係表簿を備え、庶務、会計を執行する。
第17条 事務局はその業務の一部を母校職員に委嘱することができる。
[会計]
第18条 本会の経費は入会金・終身会費・寄付金・その他の収入でまかなう。
第19条 本会は入会に際し、入会金2,000円・終身会費3,000円を納入する。
第20条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月末日までとする。
第21条 年度会計決算ならびに年度予算案は会長・副会長・監事の了承をもって総会の承認にかえることができる。
附則 この規約は昭和58年2月28日から施行する。この規約は平成17年2月26日から改正する。

平成23年度 歳入歳出決算書

歳入金額 3,672,798円
歳出金額 3,549,646円
差引残額 123,152円

1. 歳入 ▲は減少 単位：円

Table with 7 columns: 項目, 当初予算額, 繰入額, 現計予算額, 決算額, 増減, 備考. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, 雑収入, 同窓会預立金, 東高応援基金, 合計.

2. 歳出

Table with 7 columns: 項目(科目), 当初予算額, 流用額, 現計予算額, 決算額, 残額, 摘要. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, 需用費, 総会費, 運営費, 事業費, 卒業記念品費, 広告費, 会報費, 印刷費, 通信費, 会報郵送料, 情報保護費, 通信費, 在校生支援費, 在校生支援事業, 公開文化祭後援費, 予備費, 合計.

* 項目科目間の流用を認める。

平成24年度 歳入歳出予算書

歳入金額 3,580,000円
歳出金額 3,580,000円
差引残額 0円

1. 歳入 ▲は減少 単位：円

Table with 5 columns: 項目, 24年度予算額, 23年度予算額, 比較増減額, 備考. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, 雑収入, 同窓会預立金, 東高応援基金, 合計.

2. 歳出

Table with 5 columns: 項目(科目), 24年度予算額, 23年度予算額, 比較増減額, 備考. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, 需用費, 総会費, 運営費, 事業費, 卒業記念品費, 広告費, 会報費, 印刷費, 名簿管理費, 通信費, 会報郵送料, 情報保護費, 通信費, 在校生支援費, 在校生支援事業, 公開文化祭後援費, 50周年事業積立, 予備費, 合計.

* 項目科目間の流用を認める。

役員改選

◎前執行部

(会長・副会長・監事)

会長 尾形 幸男 (1期)

副会長 橋内 重康 (1期)

副会長 金子與志人 (3期)

副会長 手塚 健一 (5期)

副会長 吉田(甚野)直美 (16期)

監事 片桐 秀樹 (1期)

監事 蒲倉 達也 (3期)

監事 鈴木 勇人 (9期)

◎現執行部

会長 金子與志人

副会長 蒲倉 達也 (3期 前副会長)

副会長 手塚 健一 (5期 再選留任)

副会長 三宅 一秀 (5期 新任)

副会長 鈴木 勇人 (9期 前監事)

監事 倉島 太郎 (5期 新任)

監事 上原子祐司 (4期 新任)

監事 氏家 祥市 (4期 新任)

名誉会長 尾形 幸男 (1期 前同窓会会長)

顧問 西山 尚利 (1期 県議会議員)

顧問 橋内 重康 (1期 前同窓会副会長)

協賛者名

「東高応援基金」

○「東高応援基金について」
文武両道に全力で取り組む後輩達に金銭的な支援を行うことを目的に平成十七年度から始まったこの事業に多くの同窓生にご賛同いただきありがとうございます。今後の在校生支援を継続して行く財源の確保のため、この「東高応援基金」へさらに多くの同窓生の方にご協力をいただきますようお願いいたします。同封した振込み用紙にてお願いいたします。その際、おわかりになっていけば、卒業年度もしくは何期かをご記入下さい。

なお、ここ数年にわたって福島市役所の職場同窓会である福島市役所東校会から、部活動支援のためにという趣旨で多額のご寄付があります。これは部活動支援のための後援会会計に繰り入れ活用させていただいております。このような職場同窓会の活動に心より感謝申し上げます。

落合範文(1)木村浩一(1)西山尚利(1)益田秀明(1)尾形幸男(1)橋内重康(1)三浦信彦(1)佐藤武士(1)石山剛(1)菊池浩一(1)岡田正孝(1)大槻育男(1)秋葉直樹(2)阿部真人(2)堀切幸朗(2)真柴毅(2)阿部浩行(2)小野浩樹(2)佐久間俊光(2)穴戸佐寿

- (2)津田昌泰(2)永井貴博(2)渡辺伸一(2)尾形典良(3)金子與志人(3)鈴木友彦(3)矢草卓(3)蒲倉達也(3)紺野信幸(3)佐藤和生(3)山田昌信(3)太田幸人(3)小林雄(3)安藤武仁(3)高槻丈夫(3)寺島健吾(3)安田清克(3)相原徹(3)泉田太郎(3)齋藤文孝(3)坂巻幸司(3)下島仁(3)河野糧祐(4)吉川裕(4)大井学(4)峯智和(4)上原子祐司(4)長嶺俊英(4)鎌田勝博(4)篠木正芳(4)古閑邦彦(4)宗像和人(4)大槻達也(5)永澤憲一(5)室井克典(5)渡辺伸克(5)小野友史(5)小竹智行(5)下田克典(5)丹治聡一郎(5)齋藤徹(5)穴戸大作(5)渡辺裕哉(5)菅野晃弘(5)佐藤利久(6)丹治裕一(6)山川毅(6)安東隆司(6)佐々木光洋(6)鈴木一義(6)中村孝雄(7)穴戸敢一(7)渡部泰史(7)渡辺昌則(7)岡崎道浩(7)吉田雄一(7)織井健次(7)齋藤祐一(7)河原慎治(8)阿部崇(8)石原英明(8)板橋孝行(8)小林孝雄(8)日向正仁(8)熊坂隆(8)東城幸治(8)河野拓和(9)齋藤純一(9)菅野仁(9)佐藤浩規(9)立花純孝(9)鈴木勇人(9)内山雄史(10)佐藤宗孝(10)加藤芳史(10)小川昌弘(10)三浦和幸(10)林容市(10)吉田耕嗣(10)小林正宏(11)佐竹康弘(11)佐藤智頭(11)芳賀利規(11)菅野貴洋(11)菱沼竜也(11)真柴善継(11)石幡共則(11)吉田俊一(12)菊地輝臣(12)齋藤謙(12)服部博志(12)山岸正俊(12)阿部貴洋(12)樋口智洋(13)三浦勝美(13)熊田教平(13)岡部樹(13)齋藤博靖(14)佐藤幸樹(14)本田洋之(14)松野哲郎(14)小野賢一(14)齋藤史隆(14)三浦洋平(14)秋葉征典(14)菅野洋

- 和(14)木幡健一(14)渡辺秀一(15)佐藤光太郎(15)菅野元樹(15)高橋智典(15)阿部裕一(15)齋藤訓朗(15)菅野貴之(15)守山直樹(15)湯野澤しのぶ(16)宮川万里子(16)橋本真(16)土屋令雄(16)武田茂(17)横江博美(17)松野大悟(17)上杉光成(17)野口雪乃(18)谷内雅一(18)笠原弘毅(18)佐藤真美(18)片平美代子(19)佐藤由里子(19)渡邊祝子(19)蓬田史徳(19)佐藤寛之(20)橋内基純(20)齋藤勝敏(20)笠原敬男(20)高野莉絵(20)阿部真治(20)齋藤広彰(21)武田与史記(21)鈴木恭平(21)鍋島雅史(21)伊達孝浩(21)渡邊妙子(21)清和敬子(21)川名勇介(21)酒井友和(21)渡辺将人(22)佐藤宏樹(22)高橋諒久(22)竹内大崇(22)菱沼愛(22)藤梨奈(22)矢吹友紀(22)塩谷卓也(22)鈴木佳孝(22)浅野武志(22)笠間範子(23)柳内宏太(23)甚野清英(23)矢館実典(23)古積かおる(23)水口秀一(23)山岸恵介(23)米田秀(23)高橋政哉(23)紺野廣知(23)伊達孝典(23)山崎俊太郎(23)阿部尚徳(23)遠藤美美子(23)坂田亮人(23)長島慎弥(23)菅野数宙(24)高野未咲(24)長澤理恵(24)山内雄太(24)遠藤寛人(24)加藤丈実(24)見城藍(24)佐々木宏樹(24)松田ゆきえ(24)菅野貴文(24)茂木聖直(24)國分優佳(24)紺野雄太(24)佐藤雄大(24)宮口直樹(24)山崎朋恵(24)阿部兼太郎(24)奥山勤武(24)藤森良仁(24)木村亮介(25)齋藤智樹(25)齋藤智也(25)松本なつみ(25)大橋拓朗(25)陳野原有衣(25)山岸朝香(25)阿部隆徳(25)鈴木春世(25)永山竜也(25)本田勇輝(25)宮本圭太(25)塚本健太(25)菱沼猛(25)佐藤奈津衣(25)河野佳記(26)佐

久間翔太(26)鈴木亜季子(26)目黒祐太(26)伊藤奏(26)尾形早紀(26)小野真央里(26)千代間祥之(26)吉田有希(26)大内豪(26)紺野友里絵(26)大河内琢磨(26)今野翠(26)佐藤越萌(26)遠藤禎之(27)小野貴史(27)安齋宏樹(27)北村源規(27)前田有希(27)渡邊兼人(27)片平陽大(27)佐藤香(27)丹治陵(27)松浦由樹(27)笠原聡(27)奥山朋世(27)塩谷昌之(27)丹治寛佳(27)岩瀬里実(28)三浦崇悦(28)浅原裕佑(28)大宮誠二郎(28)今野由紀(28)谷井亜希子(28)畑和徳(28)目黒啓介(28)山本伸洋(28)渡邊匠(28)高木良介(28)大和田善愛(28)山崎勇貴(28)茨木拓也(28)岡崎綾奈(28)山田均(28)五十嵐絵里(28)加藤曜(28)佐藤望(28)深田悠斗(28)吉田雄基(28)阿部貴大(29)佐久間悠里恵(29)鈴木琳子(29)橋本遼介(29)清野成美(29)尼本瞬也(29)大内里紗(29)角田勇貴(29)北村有歌代(29)富永光(29)浅野郁美(29)北村伊晶里(29)持地潤(29)山崎健太郎(29)横田くるみ(29)加藤大也(29)横澤勇輔(29)木村紗季(29)八島康太(29)加藤寛昭(29)齋藤駿介(29)三浦綾子(29)

平成二十三年四月一日から平成二十四年三月三十日まで
に振り込みがあった方を掲載しました。保護者名で振り込まれた場合は生徒名で報告させていただきます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。氏名等の誤りがありましたら、事務局までご一報下さい。

年度別 現役合格者 延べ人数

Table with 11 columns: 卒業年度 (S57-H3), 学級数, 卒業者数, 国公立大, 私立大. Rows include S57-H3, S58-H4, S59-H5, S60-H6, S61-H7, S62-H8, S63-H9, S64-H10, S65-H11, S66-H12, S67-H13.

Table with 11 columns: 卒業年度 (H4-H13), 学級数, 卒業者数, 国公立大, 私立大. Rows include H4-H5, H6-H7, H8-H9, H10-H11, H12-H13.

Table with 11 columns: 卒業年度 (H14-H23), 学級数, 卒業者数, 国公立大, 私立大. Rows include H14-H15, H16-H17, H18-H19, H20-H21, H22-H23.

平成二十四年度入試概況についてですが、東日本大震災による影響で、福島、宮城、岩手の三県の大学は元より、東日本全体の大学で、志願者の流れに変わりがありません。たとえば、福島大学では、原発事故による志願者減が心配されたために受験料の無料措置を行いました。そ



進路指導部主任 平澤 貞博

進路

れが功を奏したのか、結果として例年以上の志願倍率になりました。また、放射線への恐怖からか、関東から東北への流入が著しく減りました。他にも多くの国公立・私立大学では、被災者に対し受験料の他に入学料や授業料の一部免除等の措置がなされました。これにより、例年よりも多くの本校生が首都圏の私立大学に出願する結果となりました。

次に、三十期生の進路状況についてです。前述のような状況

(表1)

大学別合格者数 (平成22・21・20年度入試)

Table with 5 columns: 大学名, 平成23年度生, 平成22年度生, 平成21年度生. Rows list various universities like 弘前大, 岩手大, 東北大, etc., and a total row.

Table with 5 columns: 大学名, 平成23年度生, 平成22年度生, 平成21年度生. Rows list various private universities like 東北学院大, 東北工業大, 東北福祉大, etc., and a total row.

現役大学等進学率…平成23年度生(83.0%)、平成22年度生(74.7%)、平成21年度生(73.6%)

(表2)

の中でも自分の目標に向かって必死に受験勉強に取り組み、多くの生徒が進路実現を達成することが出来ました。東北大に五名、福島大に四十九名もの合格者が出たことは喜ばしいことです。また、千葉大、埼玉大、茨城大、宇都宮大などの北関東方面の国立大学に多くの合格者が出たことは、その健闘を物語っているのではないのでしょうか。

過年度卒については、なんと二十八名もの国立大合格者が出ました。どんな状況でも自分を見失わず最後まで頑張り抜く力を、高校時代に身に付けてくれていたものと嬉しく思っております。

次は三十一期生の番です。多くの先輩方が積み上げてきた伝統に、さらなる「新しい伝統」を積み重ね、また次の時代に引き継いでほしいものです。

30期総括



30期学年主任
清水 嘉之

一 はじめに

三十期は二十七期の進学が国立大学一六五名という実績を残し、華々しく卒業していった直後の学年である。「二十七期

に近い線まで生徒を引き上げたい」という気持ちも強く、学習だけではなく部活動でも全国大会への出場を勝ち取り、「東高の伝統を守りたい」という方針で学年を運営するにしました。

二 驚きから始まった三十期(一年)

入学式が終わり、恒例の応援歌練習が始まった。全く声を出さない生徒がいて驚いた。その生徒らが属していた監督に相談したら、「校歌も覚えないう生徒は我が部にいらぬ」との一言で彼らも顔色が変わり、やがては三十期を牽引してくれた部の一員としてりっぱに成長してくれました。

予習、授業、復習と学習の習慣化をはかりどれくらい力がついたらかを知るうえで、七月の校外模試が重要であった。結果は最悪であった。何が悪いのか、どうしたらいいのか、先生方と話し合い、団結をしいだいに強め、親交も深まっていた。

今年度は三年に一度の大文化祭の年である。どのクラスも工夫を凝らし大盛況であったが、一方世界では、新型ウイルス・サーズが出現し各国で死者を出していた。本校でも感染者が多くなり、文化祭後学校閉鎖・学年閉鎖・学級閉鎖と広がってゆき、

計十日余り登校できない日が断続的に続き、学習不足は明らかだった。

三 沖繩への修学旅行と東日本大震災(二年)

金銭的に学校の財政が苦しくなり、修学旅行は京都あたりではどうかという指摘があった。初めはその方向で旅館を手配していたが、生徒の希望は圧倒的に沖繩だったので、前年度の金額を超えないとの条件で沖繩にしてみました。安くて海の見えるロケーションの良いホテルをお願いした。また沖繩の伝統の踊り「カチャーシー」を最後の夜に生徒に踊ってもらい、沖繩に来てよかったと実感も演出した。系数豪の見学では戦争での豪生活を体験し、普天間基地を高台より望み、現在抱える沖繩の問題をも考えさせた。

学習面では、ゼロ授業という新たな指導も組み込んだ。修学旅行後は希望者に放課後の課外活動と両立をはかるため、朝七時四十分からの早朝課外を始め、朝七時以降も成績的に一進一退の展開で、春休みから本格的な進学指導をしようと考えていた矢先、東日本大震災がおきた。学校も生徒も大きな被害は少なかったが、放射線

の影響で何人かは県外に避難していた。春休みの課題を渡さない教科もあり、登校させたかったが、余震も収まらず登校させることができなかった。いつ学校が再開されるかも分からない状況で、終業式もなく二年が終わっていった。

三 災害からの立て直し(三年)

震災の影響は大きく、ほとんど一ヶ月は学習していない状況だった。学校が再開され、部活動も再開されたが体力不足は大きく、春の遠征もほとんどこなしてないため戦力低下は明らかだった。しかしインターハイ地区予選では全部活が県大会に出場できようになり、念願の全国大会には女子弓道部(個人・団体)が全国大会への出場権を勝ち取り、例年並みの成果を得てほっとした。

これまでも時間を大切にさせ、遅刻や教室移動の遅れがないようにさせてきた。学力の向上のために絶対的に学習の時間の確保が大事である。学習時間の統計を二ヶ月ごとにとり、結果を担任にそれとなく見せ、多少の競争力をあおり、学習時間を確保させ学力の増加をはかった。十二月学年だけのブレ指導検討会を行った。プロジェクトを使い、広い画面で一人一人の志

望校を検討し、全員の先生が見を述べあった。先生方がベネッセのコンパスの使い方を同時にマスターし、センター後の指導に大いに役立たせた。

四 成果と課題

国立大学合格が二三九名と過去五年では一番目に良い結果となった。内容的にも東北大六名、千葉大八名、関東圏の大学の合格も良かったし、公務員も合格者を出すことができた。しかし二次力が本当に着いたかは疑問であるので、この強化が今後の課題であろう。

五 結び

三十期の生徒は素直で先生方の話をよく聞いてくれたこと。担任が個性を活かし、クラスを運営し学年指導をしたこと。担任団の団結が強かったこと。学校全体で進路実現のための協力体制があったこと。これらが合わさって生徒の進路実現が果たせました。進路指導部を始めすべての先生方のお陰で進路実現ができたことをこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

全国大会出場報告

弓道部の活動について

弓道部顧問 千葉 聡

発足十年目を迎えるようとする節目を目前にし、さまざまな苦労が思い出されます。平成十七年度末に弓道場が完成するにあたっては同窓会をはじめ様々な方々に温かいご支援をいただきました。また、部員達も充実した活動を目指して努力を継続してきました。「東高の制服を満足に着れない者が、東高のゼッケンをつけて満足に戦えるはずがない」と女子のスカートについて激しいミーティングをしたことも昨日のようです。卒業生ひとりひとりの真つ直ぐな思いが、現在の当たり前にある毎日の練習の基礎になっているのだと痛感しています。

さて、三十一期生も様々な実績を残してくれました。昨年度の盛岡インターハイでは二年生主体のチームながら大いに健闘して第五位。全国選抜(岐阜大会)では今野雄太が第四位。今年度の松本インターハイでは武田真奈が準決勝進出と大きな輝きを放ってくれました。彼らは皆、大きな試合になればなるほどその実力を発揮しました。緊張感を集中力に変える力を持っていたのだと思います。弓道を個人競技という人もいますが、そのような力は決してひとりでは育たないと思っています。弓道部を育ててくれた見えない先輩方や多くの人々に支えられ、沢山の部員達と切磋琢磨していくことでしかそのような力は育たないはずなのです。

先日(十二月)、平成二十四年度全国選抜が神奈川県(二年)が出場し、準決勝に進出しました。本人の努力もさることながら、周囲の方々の温かい心をたくさん感じました。当たり前のことに地道に取り組む姿勢こそが弓道です。この思いをずっと将来の弓道部員達にも残していけるよう、部員達と共に歩んでいきます。

新潟インターハイに出場して

陸上競技部顧問 穂積 祐司

陸上競技は他種目と違い、県大会で優勝すれば全国大会出場というシステムではありません。県大会で六位以内の者が東北大会へ、更に東北大会で六位以内に入賞すれば全国大会出場というシステムになっています。東北大会では、初日の五〇〇m競歩で遠藤香純(三年)が自己記録を更新し七位(競歩は四位までが全国大会)という好成绩で、チームを勢いづけてくれました。それに続いた四〇〇mの馬場ちえり(三年)が、予選から力みが感じられたものの、四位で全国大会出場を決めてく

れました。特に決勝は九レーンという不利な状況でも、上手く自分をコントロールし、走ることで出来、成長が感じられたレースでした。二日目の走高跳では梶田光里(二年)が二位に入賞しました。雨の中での競技となりましたが、様々な場面を想定し、準備・練習してきましたので、冷静な試合運びが出来たとおもいます。一位と同記録で試技数による二位ということで、本人は大変悔しがっております。二日目から四日目までは、四×四〇〇mリレーの予選・準決勝・決勝がありました。特に男子は、昨年・一昨年と決勝を経験し、惜敗してしまいましたので、「今年こそは」という意気込みで臨みました。予選・準決勝ともに組で二着でしたが、チーム記録を更新し、良い状態で決勝に進出しました。一方女子も、予選でチーム記録を大幅に更新し、準決勝では三着だったものの、上位記録二校に入り決勝進出となりました。なんと、男女ともに最終種目である四×四〇〇mリレーの決勝に残ることができました。あの静寂のなか、スタンドの注目を一身に集めて競技できることは何物にも代え難い経験でした。結果は、女子は力を出し尽くした七位、男子は力負けの八位で、全国大会出場は叶いませんでした。しかし、男子は三年連続、女子は初挑戦で決勝の大舞台を経験できたことは、今後の陸上競技部の後輩達に大き

な影響を残してくれました。

そして迎えた「新潟インターハイ」という大舞台。四〇〇mに出場した馬場は、調整段階においては、良い練習が積み重なったので、上位進出を期待しましたが、猛暑の中、予選で五六秒九四と自己記録を更新したものの、惜しくも組三着で準決勝進出はなりませんでした。予選後、軽い熱中症のような症状をおこしてしまい、真夏のレースの難しさを味わいました。走高跳の梶田は自己記録が一m六六で、予選通過記録が一m六五ということで、決勝進出を目標にしていました。こちらも猛暑の中、午前中の予選で一m六五をなんとかクリアすることができ、午後の決勝に臨みました。決勝には一九名の選手が挑みましたが、梶田は一六位という結果に終わりました。しかし、二年生で決勝の舞台を経験できたことは、非常に良かったと思います。今後は、インターハイ入賞、一m七〇のクリアを目指して練習に励んでいきます。応援ありがとうございます。

全国高校総合文化祭(富山総文)放送部門に参加して

放送委員会顧問 伊藤 規生

今年NHK杯高校放送コンテスト(以下「Nコン」)に番組2本進出、また標記大会(以下「総文」)に参加権と「当たり」の年でした。Nコンは例年通りですので省き、総文について記したいと思います。

参加権を得たのは「特設CM」で、他県の高校生の目で見えた富山県の魅力を30秒のCMで表現するというもので、磐城高校と合同で県代表チームとしての参加となりました。現地で映像を撮影し、48時間以内に、ハイビジョン(HD)で制作してくれ、というとてもない内容でしたが、本校から参加した2年生の精鋭5人は髻高生と協力してがんばってくれ、締切時間に余裕で間に合せて提出することができました。

作品は好評だったようで、上から2番目の表彰をいただくことができました。全国規模の大会で表彰なんて、生徒は初めて。私も前任校以来5年ぶりです。いい経験になりました。

来年はCM制作メンバーが全員残りますので、NHK杯で賞を取れるよう、がんばりたいと思います。

同窓会からいただいた激励金は生徒の食事代に化けました。うまいもの食べて、幸せそうでした(笑)。



平成24年度 部活動報告

●運動部

野 球 部

春季東北地区高等学校野球福島県大会東北支部大会
 準決勝 福島東2 5 福島商
 春季東北地区高等学校野球福島県大会東北支部大会
 1回戦 福島東2 9 若松商
 春季東北地区高等学校野球選手権福島大会
 1回戦 福島東17 6 保原
 2回戦 福島東8 1 福島南
 3回戦 福島東1 9 福島商
 全国高等学校野球選手権福島大会
 1回戦 福島東9 1 会津学鳳
 2回戦 福島東12 0 埼玉工業
 3回戦 福島東12 11 小野
 4回戦 福島東3 5 澁川桐陽
 秋季東北地区高等学校野球福島県大会東北支部予選
 1回戦 福島東7 2 福島明成
 2回戦 福島東6 1 二本松工業
 3回戦 福島東6 7 福島西
 敗者復活3回戦 福島東14 1 安達東
 代表決定戦 福島東8 3 福島商業
 秋季東北地区高等学校野球福島県大会
 1回戦 福島東3 0 相双福島
 2回戦 福島東7 0 喜多方桐桜
 準々決勝 福島東7 1 学法福島
 準決勝 福島東3 4 白河
 3位決定戦 福島東2 4 光南
 秋季東北地区高等学校野球選手権大会
 2回戦 福島東13 2 二本松工業
 3回戦 福島東4 3 福島
 準決勝 福島東3 5 福島商
 サッカー部
 福島県高等学校体育大会東北

地区大会
 1回戦 福島東6 1 福島商
 2回戦 福島東2 0 福島南
 準決勝 福島東1 0 福島西
 決勝 福島東1 3 聖光
 2位予選通過
 福島県高等学校体育大会
 2回戦 福島東0 2 富岡
 F1リーグ
 0 0 学法石川 0 1 郡山
 1 0 尚志 5 0 福島南
 0 0 聖光 2 0 富岡
 2 1 福島工 4 2 平工
 1 1 湯本
 5勝3分け1敗 第3位
 全国高等学校サッカー選手権福島県二次大会
 4回戦 福島東1 0 磐城桜が丘
 5回戦 福島東0 2 相馬
 福島県高等学校新人体育大会東北地区大会
 2回戦 福島東3 0 橘
 準決勝 福島東7 1 福島
 決勝戦 福島東1 0 福島南

卓 球 部
 福島県高等学校体育大会東北地区大会
 男子
 学校対抗 第4位
 個人ダブルス
 渡邊・丸島組 4位
 宮・山田組 13位
 個人シングルス
 桜井貴史 11位
 角田明彦 17位
 渡邊聖也 23位
 佐々木夏穂 25位
 女子
 学校対抗・個人とも予選敗退
 福島県高等学校体育大会
 男子
 学校対抗 第4位
 個人 宮 健太 13位
 佐々木夏穂 16位
 松浦瑛児 30位
 女子
 個人 中米ひとみ 22位
 福島県総合体育大会
 男子
 団体
 2回戦 3 2 清陵情報
 3回戦 3 2 いわき海星
 準々決勝 0 3 帝京安積
 個人 宮 佐々木 3回戦敗退
 松浦 1回戦敗退
 女子
 個人 中米 3回戦敗退
 全日本選手権大会福島県大会東北地区大会
 男子
 シングルス
 宮 健太 12位
 佐々木夏穂 15位
 菅野康徳 23位
 上石 翼 24位
 菅野春樹 28位
 女子 シングルス 予選敗退
 全日本選手権大会福島県大会
 男子
 シングルス
 上石 3回戦敗退
 宮、菅野春、菅野康 2回戦敗退

陸上競技部
 福島県高等学校体育大会
 男子
 400m 畠 昂平 2位
 舟木裕大 5位
 松本捷希 6位
 4x400mリレー 2位
 800m 舟木裕大 2位
 4x400mリレー 5位
 石幡・松本・地引・舟木 5位
 一年4x100mリレー 5位
 女子
 学校対抗 1 3 小野
 個人シングルス
 齋藤 1回戦敗退
 陸上競技部
 佐々木 4回戦敗退
 菅野康、宮、上石 3回戦敗退
 菅野春 2回戦敗退
 女子
 学校対抗
 1回戦 1 3 小野
 個人シングルス
 齋藤 1回戦敗退

佐藤・武藤・関・保住
 女子
 200m 馬場ちえり 3位
 400m 馬場ちえり 1位
 500m競歩 遠藤香純 1位
 走高跳 梶田光里 1位
 4x400mリレー 5位
 丹治・馬場・菅野・齋藤
 東北高等学校陸上大会
 男子
 400m 畠昂平・松本捷希 予選敗退
 舟木裕大 準決勝敗退
 4x400mリレー 8位
 松本・舟木・地引・畠
 女子
 200m 馬場ちえり 準決勝敗退
 400m 馬場ちえり 4位
 500m競歩 遠藤香純 7位
 走高跳 梶田光里 2位
 4x400mリレー 7位
 丹治・馬場・菅野・齋藤
 全国高等学校総合体育大会
 女子
 400m 馬場ちえり
 走高跳 梶田光里 予選3位 敗退
 決勝16位
 福島県高等学校新人大会
 男子
 800m 舟木裕大 5位
 3000mSC 高橋悠馬 5位
 女子
 走高跳 梶田光里 1位
 4x100mリレー 6位
 石井・齋藤・山田・菅野
 4x400mリレー 4位
 石井・菅野・山田・齋藤
 東北高等学校新人大会
 男子
 800m 舟木裕大 5位
 3000mSC 高橋悠馬 10位
 女子

走高跳 梶田光里 1位
4x400mリレー 予選5位 敗退
石井・菅野・山田・齋藤
日本ユース陸上競技選手権大会
女子
走高跳 梶田光里 20位
福島県高等学校駅伝競走大会
男子 10位 2時間23分15秒
高橋・松野・本田・穴戸・佐久間・鹿野・山田
女子 15位 1時間25分15秒
遠藤・菅野・中村・伊藤・郷家
バスケットボール部
福島県高等学校体育大会東北地区大会
男子
予選ブロック
福島東122 29福島北
福島東73 54福島西
1位リーグ
福島東37 70福島工
福島東65 47福島
福島東33 77福島商(3位)
県大会出場
女子
予選ブロック
福島東59 28福島明成
福島東55 86桜の聖母
代表決定トーナメント
福島東55 43橘
福島東69 46福島南(5位)
県大会出場
福島県高等学校体育大会
男子
1回戦 福島東92 33坂下
2回戦 福島東59 60日大東北
女子
1回戦 福島東68 51葵
2回戦 福島東47 65磐城一
福島県総合体育大会東北地区大会
男子
1回戦 福島東126 24聖光
2回戦 福島東59 49福島東稜
準決勝 福島東70 42福島

決勝 福島東59 41福島工
県大会出場
女子
1回戦 福島東63 38本宮
2回戦 福島東56 37安達
準決勝 福島東49 67福島商
県大会代表決定戦
福島東44 53福島成蹊
福島県総合体育大会
男子
1回戦 福島東68 56喜多方桐桜
2回戦 福島東48 74清陵情報
福島県選抜高校バスケットボール選手権大会東北地区大会
男子
予選ト ナメント
福島東181 13梁川
福島東93 46福島明成
1位ト ナメント
福島東48 68福島東稜
福島東72 74福島(4位)
県大会出場
女子
予選ト ナメント
福島東61 48福島南
福島東52 75福島成蹊
代表決定ト ナメント
福島東106 29福島明成
福島東69 38保原
県大会出場
福島県選抜高校バスケットボール選手権大会
男子
1回戦 福島東99 70白河旭
2回戦 福島東46 95東白大豊平
女子
1回戦 福島東50 56喜多方東
福島県男女総合バスケットボール選手権大会
男子
2回戦 福島東52 51BROTHER
2回戦 福島東60 81郡山クラブ
柔道部
福島県高等学校体育大会東北

地区大会
男子団体 5位
男子個人
73kg級8位 渡邊龍哉
81kg級6位 深田雅之
90kg級6位 安齋拓真
100kg超級3位 原 悠斗
4名県大会出場
福島県高等学校体育大会
男子団体
2回戦 福島東3 2四倉
3回戦 福島東0 5日大東北
男子個人
出場選手4名全て初戦敗退
福島県総合体育大会東北地区大会
少年男子
先鋒の部8位 引地悠弥
大将の部2位 唯木 翔
8位 原 悠斗
少年女子
中堅の部 長谷川聖華
4名県大会出場
福島県高等学校新人体育大会
東北地区大会
男子団体 3位
男子個人
73kg級3位 渡邊龍哉
90kg級1位 唯木 翔
90kg級3位 安齋拓真
100kg超級1位 原 悠斗
女子個人
70kg級2位 長谷川聖華
5名県大会出場
福島県高等学校新人大会
男子団体
予選リーグ
福島東3 2小野
福島東4 1会津農林
1位で通過
決勝ト ナメント
1回戦 福島東0 4光南
ベスト8
全国高等学校柔道選手権大会
福島県大会出場
男子個人

100kg超級 原 悠斗
ベスト8
全国高等学校柔道選手権大会
福島県大会個人戦出場
剣道部
福島県高等学校体育大会東北地区大会
男子団体 2回戦敗退
県大会出場
男子個人 県大会出場権獲得
ベスト8 中村 隼、栃久保朝陽、三浦 凌
女子個人
ベスト16 一條杏名
福島県高等学校体育大会
男子団体
2回戦 福島東0 0尚志
代表者負
男子個人
栃久保朝陽 ベスト16
中村 隼 3回戦敗退
三浦 凌 1回戦敗退
女子個人 一條杏名
1回戦敗退
福島県総合体育大会東北地区大会
男子
予選敗退
福島県高校新人大会東北地区大会
大会
男子 第10位 予選敗退
女子 第7位 県大会出場権獲得
福島県高等学校新人体育大会
女子団体
1回戦 福島東2 1磐城一
2回戦 福島東0 4若松商
弓道部
福島県春季弓道大会
男子団体 3位
今野雄太、坂上一雪、丹野 広貴、尾形健太、赤石澤伸、高橋啓太、渡邊信孝
男子個人 4位 今野雄太
女子団体 3位
伊関奈津美、泉 諒子、武田真奈、佐藤菜穂、伊藤 華、越尾菜穂、渡辺 咲

福島県遠の選手権大会
男子個人
1位 赤石澤伸
5位 小野雄斗
女子個人
3位 越尾菜穂
5位 安田真里奈
福島県春季東北弓道大会
男子団体 1位
佐久間涉伍、虎岩 翼、佐藤 充
女子団体 3位
梅宮彩香、武石春菜、野澤 碧
福島県高等学校体育大会東北地区大会
男子団体 1位
今野雄太、赤石澤伸、高橋 啓太、渡邊信孝、坂上一雪、小野雄斗、丹野広貴
男子個人 2位 今野雄太
県大会出場
寺島佑哉、坂上一雪、小野 雄斗、石橋克也、尾形健太
女子団体 3位
伊関奈津美、佐藤菜月、武田真奈、渡辺 咲、伊藤 華、越尾菜穂、泉 諒子
女子個人
1位・射道優秀賞 武田真奈
6位 伊関奈津美
県大会出場
武石春菜、佐藤菜月
福島県高等学校体育大会
男子個人 4位 今野雄太
東北大会出場
女子団体3位
伊関奈津美、泉 諒子、武田真奈、越尾菜穂、伊藤 華、佐藤菜月、渡辺 咲
女子個人 2位 武田真奈
全国高校総体出場
福島県総合体育大会東北地区大会
男子団体
1位 福島東B

西垣陽平、大河内翔伊、浦山裕太郎
山裕太郎
2位 福島東C
大波将司、今野雄太、陸智志
男子個人
1位 西垣陽平
4位 今野雄太
6位 浦山裕太郎
女子団体
1位 福島東A
渡辺 咲、遠藤綾乃、武田真奈
女子個人
2位 射道優秀賞 武田真奈
4位 渡辺 咲
東北高等学校弓道選手権大会
男子個人
今野雄太 予選敗退
女子個人
武田真奈 予選敗退
福島県総合体育大会
男子
近の部の
個人 1位 西垣陽平
団体 4位
西垣陽平、大波将司、浦山裕太郎
遠の部の
西垣陽平、大波将司、浦山裕太郎
女子
裕太郎
近の部の
個人 2位 武田真奈
団体 5位
渡辺 咲、遠藤綾乃、武田真奈
遠の部の
個人 1位 武田真奈
団体 1位
渡辺 咲、遠藤綾乃、武田真奈
総合の部 団体 2位
渡辺 咲、遠藤綾乃、武田真奈
射道優秀 武田真奈

全国高等学校総合体育大会
女子個人
準決勝進出 武田真奈
福島県遠の弓道大会
男子個人
1位 西垣陽平
5位 佐藤 蛍
男子団体
1位 寺島佑哉、大河内翔伊、佐藤 蛍
2位 西垣陽平、大波将司、浦山裕太郎
女子個人 5位 高野沙耶佳
福島県高等学校新人大会東北地区大会
男子個人
1位 大波将司
2位 西垣陽平
3位 渡辺拓馬
6位 浦山裕太郎
県大会 寺島佑哉、大河内翔伊
男子団体 1位
西垣陽平、大河内翔伊、大波将司、浦山裕太郎、陸智志、寺島佑哉、佐藤 蛍
女子個人
3位 渡辺 咲
県大会 高野沙耶佳
福島市民体育祭
男子団体
2位 西垣陽平、大波将司、大河内翔伊
男子個人 1位 西垣陽平
女子個人 3位 高野沙耶佳
福島県高等学校新人大会
男子団体ベスト8
西垣陽平、大河内翔伊、大波将司、浦山裕太郎、陸智志、寺島佑哉、佐藤 蛍
男子個人 1位 大河内翔伊
福島県高等学校弓道選抜大会
男子団体 出場
西垣陽平、大河内翔伊、佐藤 蛍、陸 智志

バレーボール部
福島県高等学校体育大会東北地区大会
男子
福島東0 2福島工
福島東1 2聖光学院
福島東2 1福島
福島東2 0福島北
福島東2 0福島商
14チ ム中3位 県大会出場
女子
予選ブロック
福島東2 0福高
福島東2 0成蹊
福島東1 2保原
順位決定リグ
福島東0 2聖光
福島東0 2福商
福島東1 2福島北
15チ ム中8位 県大会出場
福島県高等学校体育大会
2回戦 福島東2 0相馬農業
3回戦 福島東0 2湯本
女子
1回戦 福島東2 0船引
2回戦 福島東1 2相馬東
福島県総合体育大会東北地区大会
男子
予選ブロック
福島東2 0福島明成
福島東2 1福島
決勝ト ナメント
福島東0 2福島北
5位、8位決定リグ戦
福島東2 0福島明成
福島東1 2保原
福島東2 0二本松工業
11チ ム中6位
女子
予選ブロック
福島東2 0本宮
福島東2 0川俣
福島東0 2安達

決勝ト ナメント 1回戦
福島東0 2橘
5位、8位決定リグ戦
福島東0 2福島北
福島東1 2福商
福島東2 1明成
16チ ム中7位
福島県総合体育大会
男子
1回戦 福島東2 0郡山
2回戦 福島東0 2白河
福島県高等学校新人大会東北地区大会
予選リグ
福島東1 2福島西
福島東2 1福島北
決勝リグ
福島東0 2橘
福島東0 2聖光学院
福島東2 1福島
福島東2 0福島工
福島東2 0福島商
13チ ム中2位 県大会出場
福島県高等学校新人体育大会
男子
2回戦 福島東2 0白河旭
3回戦 福島東0 2郡山北工
県北地区高等学校バレーボ
ル秋季選手権大会
予選リグ
福島東1 0福島西
福島東1 0二本松工
福島東1 0学法福島
福島東1 0保原
福島東0 1福島工業
上位順位決定リグ
福島東0 1福島商
福島東0 1聖光学院
福島東0 1福島工
福島東1 0福島西

最終成績 11校中第4位
バドミントン部
福島県高等学校体育大会東北地区大会
男子団体 5位 県大会出場
男子ダブルス 17位
菅野瑛樹・廣瀬泰組
県大会出場
男子シングルス
菅野瑛樹 9位
県大会出場
女子ダブルス 9位
小椋美里・鈴木美結組
県大会出場
福島県高等学校体育大会
男子団体
1回戦
福島東2 3磐城桜が丘
男子ダブルス
菅野瑛樹・廣瀬 泰組
初戦敗退
男子シングルス
菅野瑛樹 2回戦敗退
女子ダブルス
小椋美里・鈴木美結組
2回戦敗退
福島県総合体育大会東北地区大会
女子ダブルス
青山菜・齋藤未来組
県大会出場
福島県高等学校新人大会東北地区大会
男子団体 第5位県大会出場
個人戦ダブルス
菅野翔太・橋本裕貴組、古川亮輔・武藤諒介組
第9位 県大会出場
女子団体 第7位県大会出場
個人戦ダブルス
青山菜・齋藤未来組
第9位 県大会出場
個人戦シングルス
青山 菜 第9位
小椋美里 第17位

県大会出場
 福島県高等学校新人大会
 男子団体戦
 1回戦 1 3 白河
 個人戦ダブルス
 古川亮輔・武藤諒介組
 3回戦敗退
 菅野翔太・橋本裕貴組
 2回戦敗退
 女子団体戦
 1回戦 1 3 帝京安積
 個人戦ダブルス
 青山 菜・齋藤未来組
 2回戦敗退
 個人戦シングルス
 青山 菜 2回戦敗退
 小椋美里 1回戦敗退
 ハンドボール部
 福島県春季ハンドボール選手権大会(第4シールドにより2回戦から)
 2回戦 福島東29 27 いわき総合
 3回戦 福島東32 36 聖光学院
 ベスト8
 福島県高等学校体育大会県北地区大会(第3シールドにより2回戦から)
 2回戦 福島東25 28 福島
 敗者戦1回戦 福島東33 20 東稜
 敗者戦2回戦 福島東36 23 福島商業
 第5位
 福島県高等学校体育大会
 1回戦 福島東23 21 平工業
 2回戦 福島東26 16 安積黎明
 3回戦 福島東16 22 福島工業
 ベスト8
 福島県総合体育大会県北地区大会
 1回戦 福島東39 19 福島東稜
 2回戦 福島東20 29 聖光
 県代表決定ト ナメント

1回戦 福島東28 24 福島商
 2回戦 福島東30 16 橘
 3回戦 福島東33 30 本宮
 第5位
 福島県総合体育大会
 1回戦 福島東15 35 学法石川
 地区大会
 予選ト ナメント
 1回戦 福島東46 21 福島北
 2回戦 福島東18 27 聖光
 決勝ト ナメント
 2回戦 福島東37 16 本宮
 3回戦 福島東25 10 福島商
 準決勝 福島東26 22 福島西
 決勝 福島東32 25 福島西
 優勝
 福島県高等学校新人大会
 2回戦 福島東27 17 福島工業
 3回戦 福島東22 19 福島
 準決勝 福島東36 23 いわき総合
 決勝 福島東25 33 学法石川
 第2位
 東北高等学校ハンドボール選抜大会県代表決定戦の出場権利獲得
 ソフトボール部
 第34回福島県高等学校男子春季選抜ソフトボール大会
 1回戦 福島東10 9 小高工
 準決勝 福島東2 9 須賀川
 福島県高等学校体育大会県北地区大会
 福島東14 0 福島(4回コールド)
 オープン参加のため、県大会出場
 福島県高等学校体育大会
 予選リ グB
 福島東3 6 須賀川
 福島東6 3 相馬
 福島東15 4 いわき秀英
 (5回コールド)
 2位で予選通過
 準決勝 福島東0 1 郡山北工
 第3位
 福島県総合体育大会

福島東9 7 相馬
 福島東2 9 須賀川
 (6回コールド)
 福島県高等学校新人体育大会
 県北地区大会
 福島東14 0 福島
 (5回コールド)
 オープン参加のため、県大会出場
 福島県高等学校新人体育大会
 県北地区大会
 予選リ グ
 福島東5 4 相馬
 福島東0 4 郡山北工
 福島東12 5 いわき秀英
 (6回コールド)
 2位で予選通過
 準決勝 福島東2 9 須賀川
 (5回コールド) 第3位
 テニス部
 東北ジュニアダブルステニス選手権大会
 男子
 【18歳以下】
 優勝 梅宮和真・原田 駿
 準優勝 鈴木彬人・見城航
 3位 紺野晏利・清野晃嗣
 鈴木雄太・中村友彦
 ベスト8 菅野 優・渡邊 洸、尾形佳介・佐藤和輝
 女子
 【18歳以下】
 優勝 矢吹捺美・伊藤真理奈
 福島県春季ジュニアシングルス選手権大会県北地区大会
 男子
 【18歳以下】
 3位 鈴木彬人
 ベスト8 鈴木雄太、中村 友彦、尾形佳介、見城 航
 福島県春季ジュニアダブルステニス選手権大会
 男子
 【18歳以下】
 3位 梅宮和真・原田 駿
 ベスト8 鈴木彬人・見城 航、鈴木雄太・中村友彦

【16歳以下】優勝 菅野将大
 福島県春季ジュニアシングルスステニス選手権大会
 男子
 【18歳以下】
 準優勝 原田 駿
 第3位 梅宮和真
 【16歳以下】3位 菅野将大
 女子
 【18歳以下】3位 矢吹捺美
 福島県高等学校体育大会県北地区大会
 男子
 【学校対抗】優勝
 2回戦3 0 福島工
 準決勝2 0 橘
 決勝2 0 聖光学院
 【シングルス】
 優勝 原田 駿
 準優勝 梅宮和真
 3位 菅野将大
 ベスト8 鈴木雄太、中村 友彦、紺野晏利
 【ダブルス】
 優勝 梅宮和真・原田駿
 準優勝 鈴木彬人・見城航
 3位 菅野将大・紺野晏利
 ベスト8 鈴木雄太・中村 友彦、尾形佳介・清野晃嗣
 女子
 【学校対抗】優勝
 【シングルス】
 準優勝 高橋誠果
 3位 矢吹捺美
 【ダブルス】
 優勝 高橋誠果・矢吹捺美
 福島県高等学校体育大会
 男子
 【学校対抗】3位
 2回戦2 0 田島
 3回戦2 0 学法福島
 準々決勝1 2 磐城
 準決勝1 2 磐城
 【シングルス】
 3位 梅宮和真
 【ダブルス】

準優勝 梅宮和真・原田駿
 女子
 【学校対抗】3位
 【シングルス】
 3位 高橋誠果
 【ダブルス】
 3位 高橋誠果・矢吹捺美
 東北高校テニス選手権大会
 男子
 【学校対抗】ベスト8
 1回戦 2 1 東北学院
 2回戦 0 2 磐城
 【シングルス】
 ベスト8 梅宮和真
 【ダブルス】
 3位 梅宮和真・原田 駿
 福島県総合体育大会県北地区大会
 男子
 【部シングルス】
 3位 尾形佳介、紺野晏利
 【部ダブルス】
 優勝 尾形佳介・紺野晏利
 優勝 佐久間瑠
 【部ダブルス】
 優勝 佐久間瑠・渡辺隆一
 女子
 【部シングルス】
 優勝 高橋誠果
 ベスト8 宍戸真穂、阿部 紗良沙
 【部ダブルス】
 優勝 高橋誠果・宍戸真穂
 ベスト8 阿部紗良沙・菅野千明
 【部シングルス】
 3位 大川原結花
 福島県総合体育大会
 男子
 【部シングルス】
 ベスト16 紺野晏利
 【部ダブルス】
 3位 尾形佳介・紺野晏利
 【部シングルス】
 ベスト8 佐久間瑠

【部タブルス】

ベスト8 佐久間瑠・渡辺隆二

全国選抜ジュニアテニス選手権大会福島県予選

男子 優勝 菅野将大

東北ジュニアテニス選手権大会

男子 【18歳以下シングルス】

ベスト8 原田 駿

ベスト16 梅宮和真

【18歳以下ダブルス】

3位 梅宮和真・原田駿

【16歳以下シングルス】

ベスト8 高橋誠果

東北ジュニアシングルステニス選手権大会

男子 3位 尾形佳介

6位 紺野晏利

福島県高等学校新人体育大会

東北地区大会

男子 【学校対抗】優勝

決勝ト ナメント

1回戦 3 0 福島北

決勝 3 0 福島成蹊

【シングルス】

準優勝 菅野将大

男子 3位 菅野将大
福島県高校新人テニス選手権大会
男子 【学校対抗】準優勝
予選ト ナメント
2回戦 5 0 坂下
3回戦 3 0 いわき光洋
4回戦 3 1 平工業
決勝リ ゲ
3 2 郡山
2 3 日大東北
3 2 磐城
ゲ ム率により準優勝
【シングルス】
3位 尾形佳介
6位 菅野将大
女子 【学校対抗】2位
【シングルス】
3位 高橋誠果
東北選抜高等学校テニス選手権大会
男子
【学校対抗】
予選リ ゲ
1 4 日大山形
2 3 秋田工
予選リ ゲ敗退
女子
【学校対抗】ベスト8
予選リ ゲ
2 3 日大山形
1勝1敗で決勝ト ナメントへ
決勝ト ナメント
1 1 3 聖霊短大付属高校
打ち切り
決勝ト ナメント1回戦敗退
2012U 15全国選抜ジュニアテニス選手権大会
男子
菅野将大 予選リ ゲ敗退
MUFJジュニアテニス ト ナメント2013福島県予選会

男子

優勝 菅野将大
全国大会出場
東北秋季ジュニアテニス選手権大会

男子 【ダブルス】

優勝 菅野将大・(他校生)

準優勝 尾形佳介・紺野晏利

【シングルス】

ベスト8 紺野晏利

女子 【ダブルス】

優勝 高橋誠果・穴戸真穂

【シングルス】

ベスト8 穴戸真穂

水泳部

福島県高等学校体育大会

1500M自由形(第1位)・400M自由形(第2位)・三瓶悠斗

400M個人メドレ・200M個人メドレ (入賞) 三瓶真琴

東北大会出場

東北高等学校選権大会

1500M自由形・400M自由形(第7位)薄園香

7位)三瓶悠斗

400M個人メドレ・200M個人メドレ 三瓶真琴

福島県総合体育大会

200M自由形(第2位)・400M自由形(第3位)三瓶悠斗

50M自由形(第7位)薄園香

3年生1名
福島県高等学校登山大会
安達太郎山系:男子2バ ティ
参加(1年生8名,2年生1名,3年生1名)
東北地区高等学校新人登山大会
西吾妻山系:男子2バ ティ
参加(1年生7名,2年生1名)
福島県高等学校新人登山大会
磐梯山:男子2バ ティ
参加(1年生8名,2年生1名)
ダンス部
福島東高等学校第5回ダンス発表会
福島わらじまつり ダンシン
グソーだナイト グランプリ
吹奏楽部
ル東北支部大会
吹奏楽コンク ル東北支部大会
福島県アンサンブルコンテス
福島県アンサンブルコンテス
第29回定期演奏会
東北地区音楽祭
県音楽祭

書道部

第10回定期演奏会
ル東北支部高等学校音楽祭
福島県高等学校音楽学習会
福島県たなばた展
奨励賞 菊地里美(1年)、佐藤志保(1年)、田村涼華(1年)
奨励学校賞
福島県高等学校書道展
優秀賞 紺野杏奈(2年)、菊地里美(1年)、佐藤志保(1年)

美術部

福島県書初め展
書初め賞 菊地里美(1年)
学校奨励賞

演劇部

福島県総合美術展覧会(県展)
世紀のダ・ヴィンチを探せ!
高校生ア トコンペティション
東北地区高等学校演劇連盟
春の発表会
接待係担当
東北地区高等学校演劇連盟
秋のコンクール
接待係・進行係・計時係担当
東北地区高等学校演劇発表会(ふくしま総文プレ大会)
搬入・搬出係担当

科学部

平成22年度生徒理科研究発表会
東北地区大会 摺上川の河川調査 発表

放送委員会

NHK杯全国高校放送コンテスト
東北地区大会
ラジオドキュメント部門
優秀一席
創作ラジオドラマ部門
最優秀
アナウンス部門
齋藤優香 優秀二席
佐々木和英 優秀七席

朗読部

高橋怜奈 優秀三席

以上県大会出場
NHK杯全国高校放送コンテ
スト福島県大会
ラジオドキュメント部門
優秀三席

創作ラジオドラマ部門
最優秀 以上全国大会出場
NHK杯全国高校放送コンテ
スト全国大会
ラジオドキュメント部門 出場
創作ラジオドラマ部門 出場
全国高等学校総合文化祭(富
山総文)

C M部門(磐城高校と合同チーム)
富山県実行委員会会長賞
全国高等学校総合文化祭放送
部門福島県大会

ラジオキャンペーン部門
優秀3席

テレビキャンペーン部門
優秀4席

以上東北大会出場
東北高校放送コンテスト(25
年2月)

平成24年度(31期生)

部活動を終えて

生徒会

自分が東高の生徒会長になる、
なんて入学して生徒会室に入っ
た時は思いもよらなかった。
会長になってからはいつも不
安と隣合わせでした。前会長と
副会長のキヤラがとて濃いた
め、地味な自分は生徒に認知さ
れているのだろうかという不安
から始まり、行事の準備や運営
の成功など様々でした。しかし、
そんな時はたくさんの方々が支
え、応援してくれました。私は
大変恵まれた環境にいたのだと
改めて感じます。
一人の力ではできない事も

たくさんの力を合わせれば大き
な力になることを会長という立
場で改めて経験できたのは大き
な収穫であり、良い思い出とな
りました。

このような経験をさせていた
だき、ずっと支え、応援し続け
てくれた皆さんに感謝していま
す。ありがとうございました。
(大内志穂)

弓道部

部活動を通して学んだ事は、
『日々の積み重ねの大切さ』で
す。しかし、ただ毎日積み重ね
るのではなく、考えて感じ、ま
た考える。このように内容も濃
くして、積み重ねるのが大切だ
と思います。

東高弓道部は、部員数が多い
だけでなく、練習場所が小さく、
一人一人の練習時間はあまり取
る事ができません。ですが、良
き先生・良き先輩の指導を受け、
仲間と修正すべき点などを話し
合ったり、部活は休みなのに、
弓を引かない日ができないよう
に、学校に来て練習をしたりし
ました。そうして練習の中身を
濃くし、それを毎日積み重ねて
きました。

僕達が、大会などで良い結果
を出せたと言えるのはわかり
ませんが、その毎日積み重ねの
中で学んだ事がこれからの生活
に活かされ、その毎日を共に過
ごした「仲間」ができたという
事は確かだと思っています。
(小野雄斗)

陸上競技部

僕が部活動を通して一番学ぶ
ことができたのは、仲間の大切
さです。僕は、チームをまとめ
る部長であるのに自分の不甲斐
なさにチームに迷惑をかけてし

まうこともありました。そんな
時に、指摘やアドバイスをし
てくれる仲間がいて、チームのこ
とを真剣に考えてくれていた仲
間がいて本当に嬉しかったです。

つらい練習の時でも一人だと心
が折れてしまいそうになる時も
あったけれど仲間と励まし合っ
て乗り越えてきました。僕は、
喜びや悲しみを分かち合った大
切な仲間はずっと支えられてき
ました。仲間がいたから今の自
分がいるのだと思います。仲間
がいつも側にいてくれるのは、
当たり前のように思いつけれど、
それは特別なことでありとても
幸せなことだと思っています。今後
も、仲間への感謝を忘れずに仲
間を大切にしていきたいです。
(畠 昂平)

剣道部

剣道部は、他の部活動とは少
し違います。剣道には「道」と
いう文字が入っています。他の
部活動よりも礼儀を大切にしてい
ます。例えば、剣道では「礼
に初まり礼に終わる」という言
葉があるほどです。私達は、試
合に勝つだけのチームではなく、
他のチームから尊敬されるよう
なチームを目指していました。

そのためには、剣道をやってい
る時と自分の日常とにギャップ
があつてはいけないことを学び
ました。剣道をやっている時間
は、日常生活をしている時間に
比べたらとても短いのです。い
つもやっているクセをそのとき
だけ直すことは難しいとも学び
ました。また、部活動を通して
の人間関係を築くことの大切さ
も学びました。部活動だけをし
て話し合いたくなくチームとし
て話し合い、馬鹿な話をするこ
とで互いを知り、相手と自分の

水泳部

中に信頼関係ができることはと
ても大切だと思いました。
(中村 隼)

私は三年間水泳部として活動
し、あきらめない強い心を持つ
ことの大切さを学びました。

一年のころ、なかなか記録が
伸びず、水泳をやめようかとま
で考えました。そのときに部員
や水泳の仲間の支えやほめま
しがあり、最後まであきらめず
部活に取り組みうと決心するこ
とができました。それから何
度も記録の伸び悩んだ時期があ
りました。一年の時の決心と
周りの人たちの支えにより、三
年の最後の大会まで出場するこ
とができました。最後の大会で
は自己ベストとはいきませんが
残し、引退することができまし
た。

ハンドボール部

三年間、あきらめない心を持
ち、部員全員と助け合いなが
ら取り組んだ経験は、これからの
私にとつてかけがえのないもの
となりました。(三瓶真琴)

三十一期ハンド部は、IH県
予選会三回戦で敗退し、その瞬
間、引退することが決まった。
その時は悔しさの中に充実感
があつた。
一年生の頃、一年生のみでの
練習試合が組まれ、福島工業と
対戦することになった。結果は
完敗だった。正直、このチーム
で将来勝ち上がったって行けるの
か不安だった。しかし、最後の試
合となった福島工業との対戦は
内容がまったく違つた。二、三
点差の競り合いが続く、粘り強
い力を見せたのだ。

振り返れば、チームには目標
があり向上心があつた。話し合
い、怒鳴り合い、苦楽を共にし
てきた。お互いを高め合うこと
ができる仲間だったのだ。負け
たことは悔しかったが、スター
ラインがまったく違う相手に
並ぶ実力をつけることができた
ことはチームの一員として誇り
だった。
(末永洗登)

男子バレーボール部

私が部活動を通して学んだこ
と、気づかされたことは、仲間
の大切さと挑戦することの意義
です。

何をやるにおいても仲間の存
在はとても大切なものです。チ
ーム競技のスポーツなどではより
一層それを強く感じられるはず
です。日々の練習や試合などやっ
てきて、どれも仲間がいたから
今の自分があると思います。

次に挑戦することの意義です。
私は、挑戦した結果がどうこう
よりも、挑戦すること自体に意
味があると思っています。自分
の実力以上の相手や記録に挑戦
することはとても勇気が必要で
つらいことですが、その経験が
次に生きてくるものだと思うか
らです。部活動では常に挑戦し
ているんなものを自分のものに
しようとみんなが必死になるそ
ういう場だと思っています。

部活動で得られた事は大きい
と思うので、それをしっかり自
分のものにしていきたいと思
います。
(瀧内佑二)

女子バレーボール部

私たちの学年は、選手五人、
マネージャー一人と、少ない人
数ではありますが、勝たない
という気持ちは他の部にも劣ら
ず強く持っていました。そのた

め、一度話し合いを始めると中々結論が出ず途方に暮れることも多々ありました。また、三年生になり、先生がかわり、練習内容など、自分達で考えなければならぬ機会が多くなりました。その結果、自分達の欠点、それに対応する効果的な練習など、それまで以上に詳細に考えるようになり、多くの方から意見を聞くことが増え、最後の大会までつなげることができました。これらのことから私は、部活動で、進んで相手の意見を求め、取り入れる姿勢、また、人の指示を待つのではなく、目標に向かって自分から積極的に行動するということ、最後に、しっかりと自分の欠点をみつめ、向上心を持って行動する事の大切さを学びました。(高橋南帆)

卓球部

僕たち卓球部は東北大会を目標に日々努力してきました。団体、個人共に東北地区はレベルが高くこの目標は簡単には達成できないと部員全員が承知し、常に意識していたため練習量は質は強豪校と変わりなく、毎日が充実していました。三年生の引退までにその目標は達成することができませんでしたが、全員が全力を尽くした結果であったため悔いは無いと感じています。

僕たちの活動は顧問の渡邊吉城先生、湯澤智幸先生そして保護者の方々の協力があってのものであったので本当に感謝しています。

卓球部として活動し学んだ多くのこと、感謝の気持ちをお忘れずにこれからの生活を過ごしていきたいと思えます。(渡邊聖也)

ソフトボール部

僕がソフトボール部での活動を通して学んだことは、団結し、チーム一丸となることで生まれる力の強さです。僕がこれを最も強く感じたのは、東北大会決勝の、南陽高校戦でした。南陽高校は東北一のチームで、練習試合でも正直負け続けた印象しかありません。しかし、あの試合だけは違いました。まず、ベンチの雰囲気がいつもと明らかに違っていました。まさにグラウンドにいる九人だけでなく、全員が団結し、心の底から試合を楽しんでいた、すばらしい雰囲気だっと思った。試合は三時間以上にも及び、惜しくも延長戦で負けてしまいました。だが、あんなにも負け続けていた相手にあそこまで粘り強く戦い抜けたのは、チームの団結力の力が大きかったのではないかと僕は思います。あの試合は、僕の三年間で最も辛く、最も楽しかった試合として心に残っています。(齋藤諒真)

柔道部

私の部活動で学んだことは、部活をすることの楽しさです。私の中学校のころの部活動は情性で続けていただけで、本気で取り組むようなことはありませんでした。しかし柔道部に入部し、皆で強くなることを目指し練習することで部活動が楽しいものだということがつきましました。そのことを通して勝利の喜びと敗北の悔しさも学びました。

私は高校まで武道とは無縁の人間だったのでゼ口からスタートでしたが、練習の成果が出て、自分より強かった人間を投げ飛ばしたときの喜びは今までのに無いものがありました。そして必死の努力の末に敗北することがあんなに悔しいものだというのも今更になつて学びました。

私が部活動を通して教えられたことは健康の大切さです。私は練習中に足を骨折し、とても不便な思いをしました。健康であることの大切さを知る良い機会でした。(本田晋吾)

私たちは部活動を通して、仲間の大切さを学びました。私のみでなく、部員全員が楽しいことも辛いことも体験しました。この体験を通して、私たちが成長することができたのは、日々の練習で共に励まし高めあった仲間の存在があったからです。また、私たちは試合前に顧問の先生から「自分の力と相手の力が対等なら、気持ちで勝負が決まる」とよく言われました。そのおかげで私たちは、決して諦めないことが大事だと知ることができ、試合を重ねることに負けの数が減りました。そして、一点を争うような試合でも、最後には勝てる程の精神力を養うことができました。

男子バドミントン部

このようなことから、私たちは仲間の大切さと決して諦めないことこの大切さを学びました。この学んだことを活かし、これからも自分自身を磨いていきたいです。(渡邊幹夫)

男子テニス部

私たちは全国大会出場を目標に日々努力しています。三十一期生である私が部長の代では、残念ながらその目標には届きませんでした。東北大会は常連ではありましたが、前年に全国大会に出場したことを考えると、私の部長としての統率力のなさ、と詰めの甘さが悔やまれます。次の世代には、高校に入学してから個人戦で二度全国大会に出場した、期待の持てる選手がいるので、チームに勝利をもたらして欲しいです。

結果を出せなかったとはいえ、私たちは仲間と努力し勝利の喜びを分かち合う、高校生ならではの絆を結ぶことができました。また、その努力は将来の私たちに価値ある力をもたらしてくれるでしょう。その絆と努力をもって、三十一期男子テニス部の活動の成果を総括したいと思います。

個人間の能力を問われる競技と思われがちですが、一つのチームで目標を達成するには個々の能力だけでなく、仲間を理解しうまく物事を進めるための協調性が重要になってきます。主体性を強調するだけでなく、主体性と協調性のバランスのとれたチームをつくり仲間との目標を明確にすること。それがチームの原動力となり、自分たちの目標の達成や勝利につながるといえることを学ぶことができました。苦しくつらい思いを乗り越え目標を達成する喜びも部活動で学んだことの一つです。また、部活動で養った集中力や忍耐力、向上心の大切さは、これからの社会を生きていく私たちにとつて決して無駄でなく、一生の財産になります。東高での部活動の経験を実生活で生かせるような有意義な生活を送りたいです。(伊藤真理奈)

女子バドミントン部

私はバドミントン部に入り部長という責任ある役職を任せて頂きました。この2年間バドミントンを通して学んだことは仲間の大切さということです。き

女子テニス部

(梅宮和真)

サッカークラブ

僕はこの二年半の部活動で、いろんなことを感じ、学んできました。まず僕が一番感じたことは、時間の速さです。本当にあっという間の二年半でした。ついこの間まで先輩と一緒にやっていたと思うと、いつのまにか引退でした。今さらながら、改めて時間の大切さを思いしらしました。なので先輩たちには、思い残すことのないように、全力で部活をやってほしいと思います。次に、部活を通して学んだのは、繰り返し続けることです。でもただ繰り返すのではなく、自分で意識して、向上心を持って続けることが大事だと思います。

サッカー部

(伊藤真理奈)

私はこの二年半の部活動で、いろんなことを感じ、学んできました。まず僕が一番感じたことは、時間の速さです。本当にあっという間の二年半でした。ついこの間まで先輩と一緒にやっていたと思うと、いつのまにか引退でした。今さらながら、改めて時間の大切さを思いしらしました。なので先輩たちには、思い残すことのないように、全力で部活をやってほしいと思います。次に、部活を通して学んだのは、繰り返し続けることです。でもただ繰り返すのではなく、自分で意識して、向上心を持って続けることが大事だと思います。

私はバドミントン部に入り部長という責任ある役職を任せて頂きました。この2年間バドミントンを通して学んだことは仲間の大切さということです。き

そういつた、質のある毎日の積み重ねが結果として表れてくると思います。こういうことは部活だけでなく、いろんなことにも通用してくると思うので、部活動を通して学んだ大事なことを、これからの人生に生かしていきたいです。(菊田葉生)

野球部

僕は野球部の三年間を通して仲間の大切さを学びました。甲子園出場を目指して毎日練習に励む中で、結果が出なくて悩むことがたくさんありました。でもそのたびにお互いに励まし合い、乗り越えてきました。どんなにつらい時でも最後まで諦めず努力していくうちに一人一人が成長し、少しずつ結果も出るようになっていきました。全員でチームの課題を克服したときには、一人一人が喜びました。夏の大会では甲子園出場の目標は達成できませんでした。監督・コーチ・保護者・仲間・後輩が一つになって戦った夏は一生の財産です。福島東野球部で最高の仲間と野球ができたことは大きな誇りです。この三年間、ほんとうにすばらしいものでした。(鈴木将稀)

男子バスケットボール部

僕が部活動で学んだことと言われ、主に思い浮かべるのは、「コミュニケーション」と「注意力」と「粘り」です。

まず、「コミュニケーション」は同級生同士、先輩と後輩、先生と生徒とあらゆる場面で必要とされました。社会に出て重要な能力なので、部活動を通して学べたことはすくなく良かったです。次に「注意力」です。これは

簡単に言えば物事に気づく力であり、部活中でも学校生活の中でも大変役に立ちました。そして、「粘り」です。これは僕が現役時代に最も意識していたことであり、なかなか出来なかったことでもあります。苦しいときに粘ることが出来る人は、必ずどこかで報われます。(僕は出来なかったので...)。最後になりますが、現役の人たちには、後悔のないよう何事にも全力で取り組むのをおすすめします。(渡邊翔)

女子バスケットボール部

私は小学校からバスケットボールをしてきましたが、やはり高校でのバスケットボールが一番つらくて、一番楽しくて、信頼できる仲間達にも出会い、とても濃い三年間でした。

どうしてこんなに走るんだろう。どうしてこんなにつらいんだろう。と思いつつも頑張ったあの日々は、引退した今では良い思い出です。むしろ楽しかったなと思つてます。つらい経験を乗り越えることが出来たという自信は、これから起こるといふことにも生かすことが出来るし、そのような経験を一緒に頑張った仲間は、大人になってもずっと仲良くしていきたいかけがえのない存在になりました。どんな時でもみんなの支えが力となつて私は頑張ることが出来ました。先生方やバスケット部のみんな、保護者の方々、応援してくれた、たくさんの方々への感謝の気持ちでいっぱいです。そして後輩たちには、つらい時でも一緒に頑張る仲間がいること、頑張ったという経験が自信に繋がることを忘れないで頑張つてほしいです。心から応援しています。(菊地彩子)

山岳部

私は、初めての大会で一人では何もできないということを知った。山岳部の大会では事前に、計画書と呼ばれている登山する山についての情報が記載されているしおりのようなものを作るのだが、山のことを詳細に記さなければならぬので、先生や先輩そして後輩たちのサポートがなければ平日までには間に合わないのだ。さらに山中では、仲間同士での協調性の重要さがより顕著になって表れる。例えば山では、誰か体調を崩していないか、バテていないかなど常に注意する必要がある。他にも、現在地を知るために地図を使うときに、一人では経験不足なため場所が特定できず、仲間に助けられたこともあった。結果として、私は後悔することもなく三年間、山岳部を続けることができた。(高澤秀次)

ダンス部

僕がダンス部に入るきっかけになったのは、東高校の体験入学でダンス部の先輩達の発表を見たことです。初めて見るダンスの発表は衝撃で、「自分も先輩達のように踊ってみたい」と思いました。

この部活では、発表会を成功させるという一つの目標に向かって部員一丸となり頑張ることができました。その途中には何度も仲間や自分のスキルとの壁にもぶつかったりしました。その度に仲間と協力して乗り越えることができた。それらの経験が仲間の大切さを実感させられ、自分の精神力も向上させることができました。

合唱部

自分がダンス部を通して経験したこと、出会うことのできた先輩、後輩や仲間達、そしてダンス部で過ごした時間、すべてが僕の宝です。(渡邊航太)

部活動を引退した今、私にとつて合唱部での活動がいかに大切なものであったか、改めて強く感じています。三年間、コンクールのみならず様々な演奏会にも参加する機会があり、そこで多くの方々との出会い、また貴重な経験をさせていただきました。もちろん決して楽しいことばかりではありませんでしたが、そんな実のある活動ができた影には、多くの方々の支えがありました。星英一先生をはじめとする顧問の先生方、大会の度に声をかけてくださる多くの先生・卒業生の方、そして何よりも一緒に活動してきた合唱部のみんなに支えられました。このような環境に恵まれ、合唱を通して様々なことを学ぶことができ、多くの方に対する感謝の気持ちで胸がいっぱいです。福島東高校合唱部の一員として三年間活動してきたことは私の誇りとなりました。(香野勇太)

英語部

英語部では、たくさんの方を学びました。小人数ではありましたが、その分、内容の濃い活動をすることができました。ALTの先生の直々のレッスンでは、授業以上に深く英語を学ぶことができました。入部当初は、英語が苦手でしたが、現在では以前程の苦手意識はなくなりました。三年間の活動の成果だと思えます。

また、英語部の活動は、英会話のレッスンを中心としており、楽しいと思うことはあっても辛いと思うことは一度もありませんでした。それは、やはり、ALTの先生や顧問の先生がとても楽しい方達だったというのが大きな理由だと思えます。素晴らしい環境の中で三年間の活動で得たものを、これからも活用していきたいです。(高橋真依)

書道部

書道部で過ごした三年間は、本当にあつたという間で、でもその中で様々なことを学んだ三年間だったと思います。一、二年生の時は部員が少なく、実質的には毎日二人で活動していました。その二年は、お互い唯一の部員として支え合いながらの活動でした。三年生になると、念願の後輩たちが入部してくれました。七人で再始動した書道部は、何をやるにも新鮮でした。軽井沢で大雨の中力カップを着て自転車をこいだ研修旅行、みんなで袴を着て墨だらけになった東桜祭での書道パフォーマンスなど、忘れられない思い出がたくさんできました。部員がいてくれたからこそ経験できたことで、仲間の大切さ、ありがたさを感じました。最後に、後輩達へ。新入生の勧誘は多少強引でも手を抜かないこと。楽しく書道すること。そして、仲間を大切にすること。今まで本当にありがとう。(菊地里美)

写真部

私は活動の中で印象に残っているのが、福島総文祭への参加です。東日本大震災後の総文祭でしたので内心不安もありまし

た。事前に写真部門の会場である喜多方に行き、総文祭の段取りを聞いてみると、主催側の総文祭を成功させたいという思いが伝わってきました。その後の喜多方の町を散策しながらの写真撮影もとても新鮮でした。総文祭当日では、補助員として参加しました。全国から多くの高校生が福島を訪れてくれたことに驚いたのと、とても嬉しかったです。全国からの参加者と福島からの参加者との交流を通じて、高校生の力、写真を通じてのつながりを学びました。

美術部

(久能千明)

何のために美術をするのか、という質問に入部したばかりの私は何も答えられなかった上戸部にも所属していましたが一度も考えた事なかったことで、自分が何をしてきたか振り返っても足跡と呼べるものはなく自分は何も残せていないとやっと思ひました。

答えを探す手助けをして何をすべきか教えてくれたのが東高美術部だったと思います。顧問の片平先生のお話は飾り気なく新鮮で個性的な先輩方と同期部員達やその作品は思慮に満ち彼らとやり取りをするとなりに足りないものをひしひしと感じました。三年間の活動と出会いを通して美術室は私に美術を通して目指すべき目標と将来の指針をくれたかけがえのない場所になりました。お世話になった先生と美術部員に本当に感謝しています。頼りない部長でしたが支えてくれてありがとうございました。

(浅尾珠里)

社会部

福島東高校の部活と聞くだけで圧倒されてしまうのは気のせいだろうか。リップマンのステレオタイプではないが、私には東高の部活とよくある「健全な高校生」像とはイコールでつながる。そんな部活動を通して学んだことといえば仲間だのなんだのと使い古された言葉を書き連ねたいところなのだが、正直私にはそういう一般意識とは常に対極にあつた。基本的に自分勝手な興味を持った事象に対しただ黙々とただ調べることの反復。味気のない事だが、正直私は満足している。というのも、私にとって高校の部活など途中経過でしかないのだ。卒業以降、多様な社会事象に関わるための知の収集のためのモラトリアムにしては上出来だっただろう。「何を学んだか」は今も明瞭ではない。しかし、後の私の学びに参与して行くことは間違いない。

吹奏楽部

(齋藤 慈)

「仲間の大切さ」というのが二年半の部活から学んだことです。私は入部当初、同学年とはまったく話せもしない人見知りでした。そんな自分がその後、副部長、そして部長に。正直、まったく自分にできることとは思いませんでした。しかし、そんな自分でもなんとか部長という仕事を最後までやりきることができました。なんとといっても仲間がいたからできたと思えます。仲間がいなければ、自分も部活において、学校生活においても何もできなかつたと思えます。本当に部活を通してできた仲間、吹奏楽部の皆様にはた

放送委員会

(高橋拓也)

だ感謝しかできません。部活を通して感じとつた仲間の大切さをもっと大切にしていけたらと思います。本当に皆さんありがとうございました。ごさいました。

私がこの部活動を通して学んだことは二つあります。一つ目は、どんなことでも力を合わせて成し遂げる事です。演劇部と放送委員会には全学年の人数を合わせても十数人しかいませんでした。他校の部員と比べればかなりの少人数でしたが、無事に劇を成功させることができてとても嬉しかったです。二つ目は、人から支えられることのありがたさです。部内の三年は自分一人だけな上、私は合唱部とも兼部してました。「さすがに兼部はもうできないかな」と思っていました。二年生の支えのおかげで演劇と合唱を最後までやり終えられました。

応援團

(長総拓郎)

これからは、支えてもらうだけでなく、誰かを支えられるように日々頑張っていきたいと思います。

あの夏の照りつける日射しも強い風もすべて是我々が跡絶えた応援團を復活させたところから始まった。右も左も分からずただOBの方々についていくことが課題となっていたことを思い出す。まさしく耐えの時だった。我々の活動は表には出ない、出してはいけない。ただひたすら出場する選手の皆様を応援する活動を活動としている。成績や記録も残さないが、我々はこの活動に命を懸けてきた。「心

援」の二文字のために我々は青春の全てを捧げてきた。燃える夏の球場で四十度を越える日もあった。その中で誰一人も倒れなかつたのは思いやりの心が成したことだと自重している。

福島東高校の先輩に学ぶ

「学び舎で得た
きっかけと気づき」

福岡ソフトバンクホークス
コンディショニングコーチ

橘内 基純(二〇期生)

気づけば入学、そして卒業から十年以上が経過していた。ちよつと背伸びをして、身長がいずれ伸びるだろうからと、母が用意した大き目の学生服に身を包み、校門をくぐつた日が

我々が培ったものはいや、いや、忍耐であったとは言つてもない。協力が無ければ活動は成立していない。他の方への「感謝の心」も培われたうちのの一つだと思ふ。

(田中信頼)

走馬灯のように思い出される。東校生であったときの「二十代」というイメージは、社会経験も積み、所帯も持つような、「オトナ」であったのだが、今の自分とはというと、十代のころと何ら変わらない気がする。いや、容姿や年齢など、当然「変わっている」のだが、あの頃抱いていた強い好奇心や探究心は今も何ら変わらずに持ち続けていると思ふ。

兄や姉が東高に入学し、その高校生活を小さいながら目の当たりにしていた自分にとって、受験・入学という流れは、必然だったかもしれない。入学してから、すぐさまソフトボール部に入部し、日々部活に明け暮れていた。インターハイや国体出場を目標に、厳しくも楽しい練習を続けていられた。一日の中では朝や放課後の部活以外にも、友人との昼休みのバスケやサッカー、さらには行き帰りの自転車通学など、よく動いていたなと思うくらい、やはり充実していたのだらう。学校生活の活力



橘内基純(きつないもとずみ)

1983年生まれ。
2002年福島東高校卒(20期)。
2006年早稲田大学人間科学部スポーツ科学科卒。
2008年同大学大学院スポーツ科学研究科修士課程修了。

2011年同大学博士後期課程修了。博士(スポーツ科学)。
日本体育協会公認アスレティックトレーナー(JASA-AT)。
2011年より現職。主に若手選手や競技復帰後のトレーニングおよびリコンディショニングを担当している。

は、私の場合「身体を動かすこと」だった。

その他の生活も毎日がエキサイティング。多種多様な学生が揃う東高ならではのいろいろなことに、全力で東校祭の準備をしたり、福高との定期戦での勝敗に一喜一憂しながら応援したり、体育祭で本気で他のクラスと勝負したり。今も受け継がれているはずのイベントも、全身で満喫出来ていたと感ずる。

活力に満ちていた高校生活。一年ずつ学年が上がって、将来の進路選択が間近に迫ってくる中で私は身体を動かすこと、ひいてはアスリートをサポートするような仕事に就きたいという思いが強くなっていった。普段の生活の中で、私の周りには、スポーツが何気なく存在していた。その何気なくきつかけ、気づきから生まれた目標が、大学受験のモチベーションとなり、嫌だった受験勉強にも立ち向かえる糧となったと思う。運良く団体出場も果たせたため、本格的に机に向かつて勉強漬けになったのは、秋が深まった頃からだったが、高校生活で得た集中力、メリハリはしっかりと生き続け、大学入学を果たせた。

大学でも競技は続けたが、好奇心を刺激するような学問や仲間から刺激を受け、気づけば大学院まで進んでいた。それから縁あって今、プロ野球チームにてコンディショニングコーチと

いう仕事を担当している。

「コンディショニングコーチ」とは、選手の身体能力の向上や最大・最善のパフォーマンスを發揮するために、トレーニングの指導やコンディショニングの管理、ケガの予防指導などを行う職業である。チームは、リーグ制覇および日本一を達成するため、また、選手個々には二軍で活躍をするために、トレーニングの年間計画を作成し、日々の練習の中で指導をしていくのが主な業務内容である。

現在担当する三軍は、プロ野球初の試みとして昨年からはじめたもので、若手選手や育成選手を中心に構成され、独立リーグや大学生・社会人との試合経験を通じて、選手育成を行う組織である。将来は、一軍で活躍することを夢見る選手は、将来の進路に不安を感じる高校生のように、期待と不安に苛まれながらも日々練習や試合に臨んでいる。プロ野球というスポットライトを浴びる時間が短い彼らにとって、少しでも長くプレーを続けられるように、コンディショニングを万全にして送り出すことが、この職業には求められる。私はその中でも、高校生活の時に出会った、「身体を動かす、プレーが出来る喜び・楽しさ」を選手に最大限に感じてもらえるよう、彼らとともに歩んでいく仕事に誇りを持ち、これからも突き進んでいきたいと思う。

自分の進みたい道を進み、目標を掴むために、東京へ出て、今福岡の地に立っている。離れてからのこの数年の間に、福島の町並みは変わり、時の流れを痛感した。しかし、いつまでも変わらない母校や友、先生や家族がそこにいる。現役生にとって、今の生活が何気ない一日一瞬であったとしても、いつかかけがえない時として思い出される日が来るであろう。もしかすると、未来の自分の礎となるようなきつかけが、東高にあるかもしれない。素敵な場所や友人、先生に囲まれた現役生には、東高で学び、そして福島で生活したという誇りを持ってこれからの社会へと旅立って欲しい。

「全力少年」

伝説の四期生 梅津 真樹

積み上げたものがぶっ壊して身に着けたもの取っ払って止め処ない血と汗で濁った脳を潤せ

あの頃の僕らはきつと全力で少年だった
セカイを開くのは誰だ？

スキマスイッチの「全力少年」のサビの歌詞である。

今を去ること、ジャスト三十年前。自分を含め、東高に集いし者たちは、みんなこの歌詞にあるような、全力少年だった。

自分たち四期生のころには、校舎や体育館など一通りの近代設備は完成していたが、諸先輩方の魂が息づくプレハブ教室も、まだ存在していた。いわば黎明期の最後の頃に、自分ら四期生は、福島東高の門をくぐってきた。

私にとって、福島東高は「ニューバリーフロンティア」であった。可能性に満ちあふれた、何も無い宝の島。すべてが、これからの高校。それが、東高だった。

例えば、福島高校がブランドの歴史や大河ロマンに、自分が刻まれるのを喜びとするならば、東高には、歴史を自分たちで作る悦びがあった。いかなれば、ブランドを所有するか、ブランドを創るか。の違いといえば、わかっていただけであらうか。

ブランドは、高額だからすごいのではない。長い年月で培った信頼性が高付加価値となつて存在し、その対価が、高額なのだ。そして、ブランドは一朝一夕に出来るワケではない。だから、すごいのだ。

東高は、カウンターカルチャーであった。ある意味の閉塞感を伴う、東北の既存の高校の価値観に対して、投げられた一石でもあった。

自分たちで歴史を作る、ブランドを作る。生徒達にも、先生の方々に、そんなクリエイティ

ブな空気が充満していた。

東高のテーマである「文武両道」、そして校歌に歌われる「新しい伝統」。今日は、明日の歴史」。このハイブリッドな価値観こそ、東高の唯一無二のブランドなのだ。

東高はベンチャー企業ならぬベンチャー高校だった。

そんなベンチャー高校である東高から私が学んだのは、「お笑い」「感動」「一生懸命」である。この三つは、時を越えて今だにブレない、私の行動規範の全てと言って過言ではない。

「笑い」があつて、「感動」できて、「一生懸命」にしてくれるコト。三六五日、それを我々はいつも探していた。

例えば部活。私は剣道部だった。半端なくキツイ練習を、皆でグラグラ笑いながらこなして、我らは、とんでもなく強くなつた。しかし、私は二年の冬、右膝靭帯を損傷したおかげで、右膝関節がグラグラになった。悔しいから自転車のゴムチューブをぐるぐる巻きにして練習に就いていった。

仲間が一生懸命やっている輪から、意地でも脱落したくはなかった。そして三年の引退までやり遂げた。だから、様々な感動を共有できたし、その時の先輩、後輩、先生と、未だにつながることができたと思つている。その代償として、未だに右膝は



壊れたままだが、悔いはない。

剣道部に限らず、この時期の部活はおしなべて強かった。それは、偶然ではなく、必然であった。誰から頼まれた訳ではなく、自分で選んだコトに対し、純粋に努力する。

そんな、当たり前の凄さ、凄いいことを凄いと思わせない凄さを、みんな、ゲラゲラ笑いながら、無意識に実践していたのだから。

かのアントニオ猪木もこう言っている。

「道はどんなに険しくても、笑いながら歩こうぜ！」と。

例えば、ある日の避難訓練。なぜか全クラスの中で一番になるうという話に、我ら二年五組

はなつた。

「未来永劫、絶対に破られない記録を作ろう！」

皆で誓った。そもそも、そんな記録なんて、ありやしない。そんなの分かっている。しかし、挑みたかったのだ、我々は。

公式ルールはないが、ズルはしたくないので、全員着席とした。そして非常ベルを待った。緊迫した空気が流れる。時計の針の音が聞こえる。

「チリチリチリ！！！！！！」

非常ベルがなった！
「総員退避！」「窓開ける！」
「ドア開ける！」「ゴー！ゴー！ゴー！ゴー！」

四十人が一斉に避難した。脇目も振らず、階段を駆け下り、校庭を目指した。もちろん、校庭には我々が一番のりだった。整列後、点呼し、全員揃ったのを確認し、我々はトラックをウイニングランしながら、全校生徒の到着を待った。そして、歓喜のシャンパンファイアの代わりに、消火放水の中突っ込んでいった。

おそらく、その記録は、未だに破られていないだろう。記録が何分なのか、覚えていないが。

例えば、三年の東桜祭。仮装行列の出し物を決める時、誰かが言った。ただの仮装行列でいいの？ただの仮装行列を見て、みんなが喜ぶか？そして、我ら三年三組は宣言した。

「ならば、誰でも見て楽しめる、娯楽として創り上げよう！」

今を去ること三十年前。我々はエンタテインメントとは何か？を自発的に課題として捉え、当時まだ概念化していない「顧客満足最大化」に挑んだ。

コントがあり、パフォーマン

スがある仮装行列。ウケた。半端なくウケた。猛烈にウケた。

調子に乗った我々は、卒業記念に、旧長崎屋の前のホコ天で再度実演した。その模様は、自分たちで福島民報にリークし、取材をセッティングし、紙面に載った。そして、我々で、その模様は撮影し映画化した。

てな感じで、我々にとって東高は、一年三六五日、すべてが「お笑い」「感動」「一生懸命」だった。

一生続くと思っていた東高の生活は、当たり前だが三年で終わりを告げた。そう、東高の三年間は一回きりで、一生モノだった。その三年間を共有した仲間、先輩、後輩、先生は、一生モノの宝である。

校歌という予言の書に記された「新しい伝統」「今日は明日の歴史」を作るべく、それを皆が自覚し、いつも何かに挑んでいた。そう、我々のあとに伝説を創るために。だから我々四期生は「伝説の四期生」を名乗るのだ。

東高での、あらゆる経験があつ

て、今の私がいる。

クリエイター、プランナー、プロデューサーを生業とする今の私の原点は、東高にある。

バンド活動が、作詞家の原点であり、東桜祭の実行委員会が、イベントプロデューサーの原点であり、パフォーマン

スの映画化が、クリエイターの原点である。

人生は「変えなきゃいけないこと」と「変わっちゃいけないこと」のせめぎあいである。私の中で東高からもらった宝は「絶対に変えちゃいけないこと」なのだ。

今、福島は本当に大変な状況にある。後輩のみんなは、本当に大変な辛い経験をしていると思う。

ブータン王国のワンチエク国王は、震災後、南相馬を訪れた際こう語った。

「人は、心の中に龍を飼っている。その龍は、経験を食べて大きくなる。」と。

未曾有の経験をした後輩のみんなは、心の中に龍がいるはずだ。その龍を、これから大きくし、さらなる経験を一つひとつ刻み込み、強くなることで、「辛」を「幸」に変えていって欲しいと、切に願う。

スキマスイッチの「全力少年



の最後のサビは「う歌っている。

積み上げたものがぶっ壊して身に着けたもの取っ払って

幾重に重なり合っ描いた夢への放物線

紛れもなく僕らずっと全力で少年なんだ

セカイを開くのは僕だ

行け！東高の後輩たちよ！セカイは、心の中に龍が宿る君たちを待っている！

みんながんばれ！俺もがんばる！

耐震工事と大規模改修工事について

プロジェクト主任 今野 充宏(2期生)

平成二十五年度から三カ年計画で北校舎の耐震工事ならびに大規模改修工事が行われます。そのため、今年度からプロジェクトチームを編成し、様々な角度から現在の問題点を洗い出し、今の東高に適切な校舎配置とはいかなるものかを検討をいたしました。基本的なコンセプトは次のとおりです。生徒にとってより学びやすい環境、より機能的な配置とすること。東高の強みである、近い場所に多くの職員の居室がある配置とすること。教育相談室と図書室の教育的な機能を高めること。これらのことを踏まえ、まとまったのが平成二十八年度校舎配置図です。

第一のポイントは、近年ますます重要度を増している教育相談室の機能を強化することです。一階の進路指導室を教育相談室に変更し、保健室から廊下に出なくとも往来ができる動線を保しました。なお、これにともなつて進路指導室は二階の職員室隣へ移動し、職員室と進路指導室の連携がより緊密化できると考えます。

第二のポイントは、図書室を二階に上げ、生徒の目に常に入

る場所に移したことです。また、南校舎との渡り廊下は二階にあります。これにより、生徒がより図書室に親しんでくれることを期待しています。また、司書室を南側に移すだけでなく、書庫を設置することも可能になります。

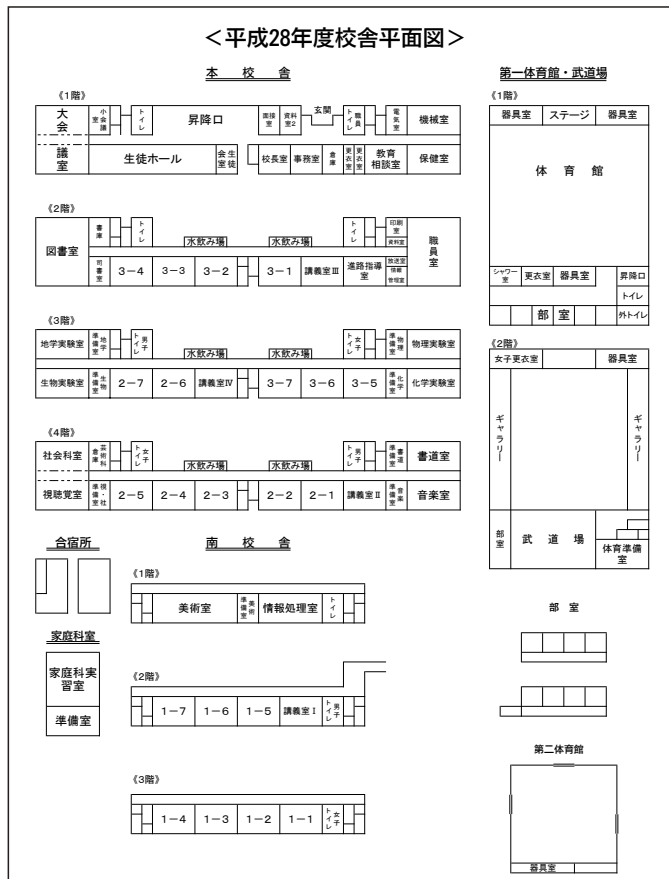
第三のポイントは、会議室等を一階に下ろすことです。これによって、外部の会議が開催されるときでも玄関から、教室の前を通らずに会議室に行くことができます。また、会議がないとき、放課後は生徒に開放することもできます。また、一分割、四分割にもすることが可能になり、三者面談等に活用することもできるなど多機能なものにすることもできます。なお、四階の社会科学室、視聴覚室も同様に分割することが可能です。

第四のポイントは、楽器の保管を主目的とする芸術科倉庫を設置したり、情報管理室を職員室に併置したりするなど現実に即した変更を行うことです。生徒会室も生徒ホールに隣接させ、会議室とともに一階西側を生徒の生徒が活動する場とすることもできるよつになります。

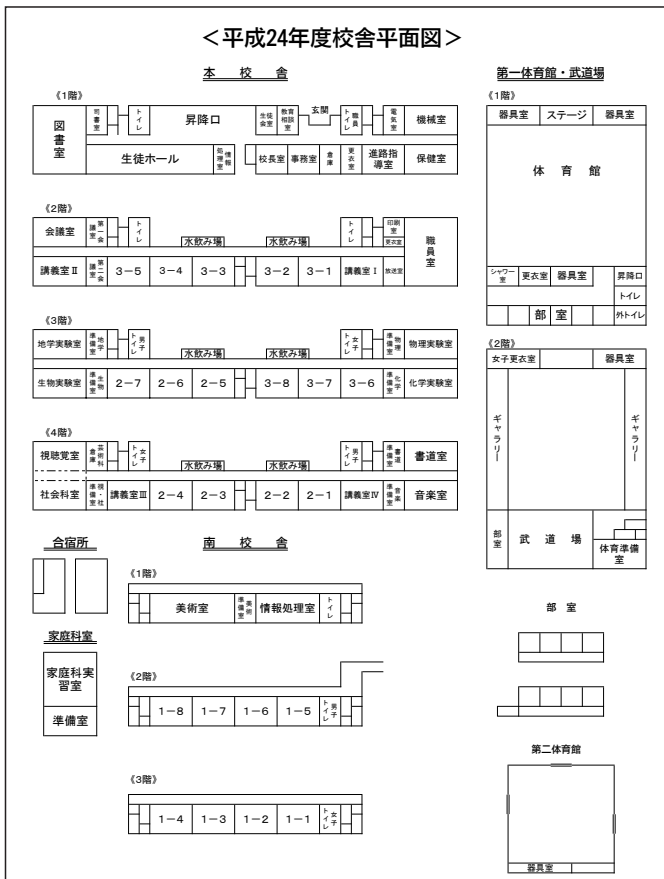
耐震工事としては外側にブレースが入ることになります。また、教室の後ろ廊下側の窓が壁になります。同窓生の皆さんには慣れ親しんだ校舎が改修され、複雑な思いもあるつかと推察しますが、後輩達の安全と教育環境の整備のためだといふ趣旨をご理解いただきますようお願いいたします。

最後になりますが、同窓生の皆さん、現在の東高生は本当によくがんばっています。「文武分業」ではなく、一人一人が「文武両道」の実現に向けて一所懸命に努力をしているのが今の東高生です。自分を追いつめてまでがんばる姿には頭が下がります。三十年前に東高生だった私など比較にならないほど素晴らしい後輩達です。今後とも東高生の応援をよろしくお願いします。

<平成28年度校舎平面図>



<平成24年度校舎平面図>



転任者の言葉

金川 勇次

今年度の人事異動で本校に赴任しました。前任校は保原高校です。本校は、新しい学校という印象を持っていましたが、すでに三十有余年の歴史を誇る伝統校であることを、実感しています。

創立当初からの文武両道の motto が、今もなお、生徒の生活の隅々にまで行き渡っている様子は、教える側としても襟を正さざるを得ず、指導意欲をかき立てられます。職員室を見回してみると、夜遅くまで指導をしている同僚が多いのも納得のいくところです。

また、敷地が広く、自然豊かな点にも驚かされます。外出する際、木々に珍しい小鳥を見かけることも少なくありません。先日は、正門を入ったところにある力エデの木に、キツツキがいるのを見かけました。スズメ

平成24年度 転出者

Table with 3 columns: 職名, 氏名, 転出先. Lists staff departures including 圓谷博一, 片平貴司, 齋藤欣也, etc.

平成24年度 転入者

Table with 4 columns: 職名, 氏名, 前勤務先, 教科. Lists staff arrivals including 鈴木浩一, 田中寿彦, 狩野剛, etc.

平成24年度 教育実習生 (同窓生のみ)

Table with 4 columns: 氏名, 期生, 氏名, 期生. Lists student teachers like 野田紗央里, 村上直樹, etc.

編集後記

本校の流儀にもようやく慣れしてきましたので、「今日は明日の歴史」「新しい伝統」を心に刻み、教育活動を続けていきます。

今年は三年に一度の公開文化祭が九月に開催されました。夏の暑い時期に実施する文化祭は、まさに青春の思い出のページという印象です。同窓生の我々も昔を思い出しながら文化祭を見せました。生徒はまるで水を得た魚のごとく、生き生きと文化祭の準備や本番当日を楽しんでいました。昔と変わらない風景を見ていたように思いますが、決定的に違うのは男子高校としての文化祭と男女共学校としての文化祭という点です。我々男子高校時代の文化祭は、校内文化祭など何を行ったか覚えていないほど盛り上がりがないものでした。つまり身内であったところであまり面白くないこと

です。しかし、公開文化祭のようには外部から人が来るとなると壮絶なパワーが生まれ、訳のわからない盛り上がりを見せました。企画も見るに堪えないものもありました。一方、現在の東高生となると公開文化祭どころか校内文化祭でもかなりの盛り上がりを見せています。校内文化祭でもダンスや演劇などかなり凝ったものを準備して、演劇に殺陣を取り入れるなどかなりの工夫が見られます。もちろん公開文化祭はさらに輪をかけたようになるので言うまでもありません。

こういつた点からも校風が変化している(もちろん進歩という意味で)と感ぜられます。我々の時代の文化祭は外部からの来校者があることで初めて完成するものでした。ところが今の東高生は閉じられた世界でも、開かれた世界でもその環境に応じ

注意です!

同窓会事務局を名乗る電話が同窓生の自宅にかかってくるという苦情が学校に寄せられることがあります。同窓生の携帯電話の番号や現住所を聞くことが多いようです。事務局では一切このような電話をしておりませんので注意して下さい。なお、このような場合、「東高に確認してみます」と対応して下さい。同窓会からの連絡は郵送です。電話等による問い合わせは原則的にはしません。どうしても電話連絡が必要な場合は、東高あてに掛け直してもらっています。東高の電話番号は 024-531-1551 です。